

同窓会報



鳥羽商船同窓会

〒517-8501
三重県鳥羽市池上町1番1号
TEL (0599)25-8045
FAX (0599)25-8128
振替口座番号 00850-6-846



みんな頑張れ 同窓会は応援します

◆ 目次 ◆

同窓会会長代行挨拶……………	2	支部だより……………	18
校長挨拶……………	3	クラス会……………	22
平成25年度本部会務報告……………	4	人物紹介・新刊紹介・訃報……………	24
平成26年度本部会務報告・計画……………	4	全日本船舶職員協会会長挨拶……………	25
平成25年度会計報告……………	6	会員の投稿……………	26
平成26年度予算……………	7	事務局だより……………	27
同窓会役員・理事……………	7	平成26年度行事予定……………	30
同窓会の活動……………	8	会員の移動など……………	31
NPO法人 故郷の海を愛する会……………	10	死亡会員一覧……………	32
学校だより……………	12	新入会員……………	33
かぞぐるみとすなケッチ……………	16	住所変更……………	34
イマジンカップ参戦記……………	17	寄付金・会費納入 一覧……………	35

同窓会会長代行挨拶

S42N 田中三郎

鳥羽商船同窓会のみなさまお元気ですか！

去る6月8日に神戸メリケンパークオリエンタルホテルで開催された平成26年度鳥羽商船同窓会理事會・総会で菱田司会長より来年度総会までの間の会長職務代行の指名を受けた田中三郎です。2年半ほど前にも辻会長より職務代行者として指名を受けましたので今回は2度目の登板となりますが、みなさまのご支援とご協力をよろしくお願いたします。



私自身の経歴については前回の職務代行者指名を受けた際に紹介させていただきましたが、改めて簡単に紹介させていただきます。

私は1948年東京にて誕生。1969年鳥羽商船高等学校航海科卒業/日本郵船株式会社入社。日本郵船在任期間中の1979年から1982年まで派遣教官として母校に在籍(在籍期間中に創基100周年事業がありました)。その後日本郵船に復職し、1988年に日本郵船客船業務部門に着任してより2012年に郵船クルーズ株式会社を退職までの24年間を客船事業一筋の会社人生を過ごしました。退職後はカジュアルクルーズ事業会社設立に奔走し、本年9月より一般財団法人みなと総合研究財団の首席研究員として我が国におけるクルーズ振興に関する業務と研究に取り組んでいます。

さて、私ども鳥羽商船同窓会は2007年に辻裕氏を会長に迎へ、母校内に地元同窓生有志による事務局を設

置、そして、同窓会員全員が全国7支部のいずれかに所属する体制を整え同窓会の活性化に取り組みました。以来7年、同窓会活動の中心拠点として母校のご配慮で100周年記念館1階に立派な同窓会事務所を設けさせていただき、同窓会活動のベースとなる各支部も各支部長の元でそれぞれの地域特色を生かした活動を推進しています。活性化された同窓会の様子は同窓会ホームページ(<http://tobashousen-dousoukai.com/>)で知ることができますので是非ともご覧ください。

伝統ある同窓会の歴史を紐解くと、大正14年に神戸市中山手にて創立された「鳥羽商船倶楽部」がその発祥でありますので、本年は同窓会89周年であり11年後の2025年に同窓会100周年の輝かしき歴史を刻みます。更にその6年後の2031年には母校創基150周年の佳節を迎えます。

輝かしき佳節の11年後・17年後を近いと取るか遠いと取るかは夫々により異なると思いますが、鳥羽商船同窓会をしっかり継続させていくことをミッションとして課せられた私にとっての11年・17年は目前の出来事と受け止めざるを得ません。

活発な同窓会活動を推進する現在であればこそ歴史的な節目を迎えるその時を見据え、高専における船員教育がどうなるのか？ 鈴鹿高専との統合はあるのか？ など母校の将来像を見守りながら、商船系卒業生と工業系卒業生との連携など同窓会存在の基盤となる課題にきちんと向き合っていく必要があると思っています。

明治14年よりそして大正14年より連綿として継承された母校そして同窓会を後継の青年たちに引き継ぐためにも、同窓のみなさまの益々のご活躍そしてご健勝をお祈り申し上げます。

来年の総会(開催地:鳥羽)でお会いいたしましょう！



校長挨拶

藤田 稔彦



◇カリキュラム改訂

学内の将来計画委員会 WGにおいて、平成 23、24 年度と 2 年間かけて、学科改組、カリキュラム改訂、進級規定等について検討しました。その結果、当初予定の学科改組は見送り、この WG でまとめた内容を現行 3 学科の新カリキュラムに取り入れることとし、平成 25、26 年度に授業時間表、進級基準等について細部の詰めを行い、平成 27 年度より実施することにしました。新カリキュラムでは、イノベーション人材、グローバル人材の育成のため、創造力と英語力の強化に重点を置き、キャリア教育も組み込んでいます。

◇機関別認証評価等

高等専門学校は、学校教育法により 7 年以内毎に外部の評価機関により評価を受けることが義務づけられています。本校も昨年 6 月の自己評価書の提出から、書類審査、11 月の訪問調査、本年 1 月の評価結果（案）の通知、異議申立て等を経て、平成 26 年 3 月 26 日に独立行政法人大学評価・学位授与機構より「高等専門学校評価基準を満たしていることを証する」認定証が交付されました。

また、昨年 10 月には STCW 条約第 1 - 8 規則に基づく資質基準制度に関する現地調査があり、資質基準システムが適切に運用されていることの検証がなされました。本校は船舶職員養成施設であり、5 年を超えない一定期間毎に第三者による評価を受けることになっており、その結果は IMO へ報告されます。なお、今回は中部運輸局海上安全環境部ではなく、日本海事協会認証サービス事業部の調査官により実施されました。

◇高専機構の中期目標・中期計画

平成 16 年 4 月に当時 55 校の国立高専を一つに束ねた独立行政法人国立高等専門学校機構が発足してから 10 年経ち、本年度から新たな 5 年間の中期目標期間に入りました。その中期計画の中に、次の 2 つがあります。

1) 教育課程の編成等 ①産業構造の変化や技術の高度化、少子化の進行、社会・産業・地域ニーズ等を踏まえ、法人本部がその機能を発揮し、イニシアティブを取って、自律的、協働的、創造的な姿勢でグローバルな視点を持って社会に立ち向かう、科学的思考を身につけた実践的・創造的技術者を養成するため、51 校の国立高等専門学校の配置の在り方の見直し及び学科再編、専攻科の充実等を行う。……

2) 学生支援・生活支援等 ⑤船員養成機関である高等専門学校の商船学科においては、船員不足のニーズに応えるため、現状を分析した上で、関係機関と協力して船員としての就職率を上げるための取組を行う。

これらは平成 25 年 12 月 16 日に総務省の政策評価・独立行政法人評価委員会が決定し、各主務大臣に通知した「独立行政法人等の主要な事務及び事業の改廃に関する勧告の方向性」を受けたものです。この 2) について同評価委員会では次のように記しています。

「海洋基本計画」（平成 25 年 4 月 26 日閣議決定）において、「日本人外航船員の数を平成 20 年度から 10 年間

で 1.5 倍に増加させるための取組を引き続き促す」、「高齢化の進展等に伴う内航船員の不足」との記載があるが、商船高等専門学校就職者における船員としての就職率をみると約 6 割から 7 割にとどまっている。商船高等専門学校は船員養成機関であることから、船員不足のニーズに応えるために、この原因を分析し、関係機関と協力して船員としての就職率を上げるための取組を行うものとする。

◇国立高専の高度化再編

平成 21 年 10 月に同一地区にある国立高等専門学校の高度化再編により、仙台、富山、香川、熊本の 4 つの新しい高専が誕生しました。前記 1) の「学校の配置の在り方の見直し及び学科再編」は、5 年前のこの高度化再編と同様の趣旨と考えられ、将来にわたる入学者確保の問題が背景にあるようです。

同じ三重県の本校と鈴鹿工業高専とは平成 22 年 3 月 17 日に協定書を取り交わし、連携を強化して共同事業を推進していますが、本校の今後の入学志願者数等の推移によっては統合再編問題が再浮上する可能性があります。

また、商船学科をもつ 5 高専は、前記 2) の問題、入学志願者数等の問題のほか、船齢ほぼ 20 年の各校練習船の維持及び将来の代船建造予算等の問題があり、富山高専及び瀬戸内の 3 商船高専と一緒に解決を図っていく必要があります。平成 24 年度から 5 高専と 4 団体（船主協会、全船協、全日海、国船協）が連携し、5 年間の予定で海事人材育成プロジェクト（海事分野における高専・産業界連携による人材育成システムの開発）を実施しており、その成果が期待されます。

◇入試状況

今年の入学者は、商船学科 42 名、電子機械工学科 46 名、制御情報工学科 42 名で合計 130 名（うち女子 17 名）、生産システム工学専攻 11 名（同 3 名）でした。

現在、本校在学生の約 80%（商船学科 50%、工業系 2 学科 95%）が県内の出身です。在学生の約 60% が伊勢、志摩、鳥羽などの南勢地区から来ていますが、鳥羽市ではこの 5 年間で中学生人口が 17.6% 減り、志摩市では 14.5% 減っています。この地域の中学校は、統合により 3 校減って現在 26 校です。春季にはこれらの中学校を重点的に訪問し、秋季には県内全域の約 100 校と近県の中学校にも受験を働きかけるなどして、2 倍程度の入学志願者倍率を確保しています。

なお、船主協会主催の「国立高等専門学校（商船学科）5 校合同進学ガイダンス」が今年 6 月 28 日に広島、7 月 6 日に横浜、7 月 20 日に神戸の 3 会場で開催され、計 200 名近くの参加者がありました。各会場でご協力いただきました同窓会各支部の皆様にはこの紙面を借りて御礼申し上げます。

◇旧白菊寮、その他

旧白菊寮はこの 8 月までに北寮と南寮の解体工事が終わり、今年度中に食堂（現在は主にロボコンチームが使用）の実験室等への改修工事を行う予定です。

最後になりますが、全国高専プロコンその他において、本校制御情報工学科のチームがすばらしい成績を収めています。学生の活躍等については、他の記事あるいはホームページをご覧ください幸いです。

本部報告

平成25年度本部会務報告

① 会議

- イ 理事会 平成25年6月9日(日)名古屋
- ロ 総会 平成25年6月9日(日)名古屋
上記に関しては昨年の会報で報告済み
- ハ 役員連絡会議の実施
例年、母校海学祭時に実施されていた支部長会は、役員連絡会議(メール会議)の形で4回実施。
主な内容
 - ・H25年5月
役員改選についての打ち合わせほか故郷の海を愛する会の法人化に向けた連絡事項。
 - ・H25年11月
学校と本部事務局等との意見交換会の内容周知(卒業生に対する入会説明会開催の要望)
 - ・H26年1月
会員名簿発行にかかる会員情報提供協力依頼ほか総会懇親会費用等の打ち合わせ。
 - ・H26年3月
学校と本部事務局等との意見交換会の内容周知(名簿掲載の学校教職員の情報提供依頼、故郷の海を愛する会への協力依頼等)ほか同窓会入会金の廃止案についての意見集約。

② 会報の発行

平成25年9月27日、同窓会会員3,730名に発送。

③ 主要活動

平成25年

- ・5月15日、戦没・殉職船員追悼式に東日本支部他同窓生参加。
- ・5月27日、11月11日、本部事務局・伊勢志摩支部有志10名で近藤真琴先生記念碑周辺草刈り実施。
- ・6月11日にNPO法人に登録した「故郷の海を愛する会」の活動支援。
- ・7月20,21日、全国商船高専漕艇大会支援。
- ・7月27日、故郷の海を愛する会2013年活動その①実施。全船協会長及び同窓会会長が見学。
- ・9月29日、母校の商船学科卒業式及び専攻科終了式挙行。卒業生を祝う祝賀会を協賛し、新入会員の会費等受け取り。
- ・10月2日、攻玉社創立150周年記念式典に藤田学校長・菱田同窓会長参列。
- ・10月20日に実施された東海・北陸地区ロボットコンテスト支援。
- ・11月11日、全国規模の体育大会出場学生及び学術コンテスト入賞学生に活動支援金・報奨金の贈呈。
- ・全日本船舶職員協会の賛助会員として、協力。
- ・合同進学ガイダンスへの協力。
- ・11月17日 母校の海学祭に協賛する。

平成26年

- ・新しい会員名簿作成準備開始、会員に連絡。
- ・3月3日、工業系学科卒業生、専攻科終了者の祝賀

- 会を協賛した。新入会員の会費など受け取り。
- ・3月18日、学校と本部・伊勢志摩支部が連絡会議。その内容は、
 - ・近藤真琴記念碑周辺の整備を学校が行ってくれましたが、今後の改修の計画を学校に問い合わせ。(回答：除草効果を考慮し、敷石の敷設の予算化をする。)
 - ・本年5月末に発行予定の同窓会会員名簿に記載する旧教官、教職員、在校生の情報提供のお願い。(回答：可能な範囲で提供する。)
 - ・卒業予定者への同窓会の説明会の実施のお願い。(回答：実施に向け検討する。)
 - ・故郷の海を愛する会の活動に対する協力をお願い。(できる限り協力する。)
 - ・百周年記念館の施設利用に関するお願い。(回答：一部倉庫を開放する。)
 - ・白菊寮の北寮が解体されましたが、その後の計画について問い合わせ。(回答：現在のところ計画は未定)

平成26年度本部会務報告・計画

① 会議

- イ、理事会
平成26年6月8日(日)10:20~11:40
神戸メリケンパークオリエンタルホテル
瑞天(中東)の間
- ロ、総会
平成26年6月8日(日)11:50~12:20
神戸メリケンパークオリエンタルホテル
瑞天(中東)の間
- ハ、支部長会
支部長会は開催せず、メールによる役員連絡会議を定期的に開催し、役員間の意思疎通を図る。

理事会の詳細を下記します。

1. 開 会
2. 会 長 挨拶 会長代行者の指名等について
3. 議 事

議案第1号	平成25年度会務報告について
議案第2号	平成25年度会計決算について
議案第3号	平成25年度会計監査報告について
議案第4号	平成26年度役員交代(案)について
議案第5号	平成26年度行事計画(案)について
議案第6号	平成26年度会計予算(案)について
議案第7号	鳥羽商船同窓会会則及び同運営細則の改定(案)について
4. その他
 - (1) 事務局報告
 - (2) 各支部報告
5. 閉会

議案の会務報告、会計決算、会計監査報告、役員交代、行事計画、会計予算等に関しては本会報の記事を参照ください。

議案第7号について

鳥羽商船同窓会会則及び運営細則(改定)の一部改定に至る経緯。

鳥羽商船同窓会会員は鳥羽商船学校・鳥羽商船高等学校・

鳥羽商船高等専門学校並びに鳥羽商船高等専門学校専攻科出身者を以って構成し、母校を卒業した者は特段の事由（入会辞退等）が無い限り、同窓会の正会員となることが同会則によって規定されています。

過去においては、この規定に則り多くの卒業生が正会員として入会し会の適正な発展に寄与して参りましたが、時代の変遷とともに入会を辞退するもの、或いは会そのものに関心が無く積極的な入会を躊躇するものが多くなり、会の維持・運営に少なからず悪影響を呈している現状となって参りました。

また、会員制度の現状としては、卒業生全員が会員となることが規定されている中、入会金納入者も入会金未納者もすべからず会員となり、入会金そのものの整合性に疑問符が付く状況となっていることもあり、これらの現状を踏まえ、少しでも多くの卒業生に会の本質を理解していただき健全な会が継続していける道筋を確立するため、金銭的負担を軽減する方策として入会時に徴収してきた入会金制度をこの度、廃止することと致しました。

鳥羽商船同窓会会則 一部改定新旧対照表

新	旧
(会の収入) 第25条 本会の維持運営は会費、寄付金及びその他の収入を以ってこれに充てる。 (金銭管理) 第26条 会費、寄付金及びその他収入の金銭管理については理事会の決議を経て安全確実な金融機関に預金する。	(会の収入) 第25条 本会の維持運営は入会金、会費、寄付金及びその他の収入を以ってこれに充てる。 (金銭管理) 第26条 入会金、会費、寄付金及びその他収入の金銭管理については理事会の決議を経て安全確実な金融機関に預金する。
附則 この会則は、平成26年6月8日から施行する。	

鳥羽商船同窓会運営細則（改定）一部改定新旧対照表

新	旧
(会費) 第9条 会費は年額2,000円とする。但し、夫婦会員の場合の会費は1名分とする。 2 終身会費は20,000円とする。(満65歳以上で会費を完納している者)	(会費) 第9条 入会費は1,000円とする。(削) 2 会費は年額2,000円とする。但し、夫婦会員の場合の会費は1名分とする。 3 終身会費は20,000円とする。(満65歳以上で会費を完納している者)
附則 この細則は、平成26年6月8日から施行する。	

理事会は理事28名（委任状9名）の出席の元、開催となりました。

初めに菱田会長が健康上の理由で「会長代行を田中副会長にお願いしたい」と申し出があり、承認されました。会長任期の残りである1年間、田中副会長に会長代行を務めて頂くこととなりました。

引き続き、事務局が用意した諸議案の討議がなされ、原案通り承認されました。

その後、事務局報告と各支部報告がなされました。伊勢志摩支部報告の中で「NPO法人故郷の海を愛する会」の活動報告もなされました。



理事会の様子
総会が引き続き同じ場所で開催となりました。出席者は100名を超える会員となりました。来賓として母校から藤田学校長、石田副校長、豆本事務部長、全日本船舶職員協会から岩田会長が参列され、藤田学校長から学校の現状報告がなされました。その後、理事会で承認された諸議案について報告がなされ、総会でも承認となりました。



総会の様子
懇親会は海が見える会場で盛大に開催されました。参加者は約110名となりました。



懇親会の様子

② 会報の発行と会員名簿の発行

会報は平成26年9月27日に発行。加えて、平成26年5月末に新しい会員名簿が発行されました。多くの同窓生から広告掲載の協力を得て、新しい会員名簿の発行は同窓会会計におおいに助けとなりました。

③ 主要活動

- ・ 全国商船高等専門学校カッター・レース支援
- ・ 母校の商船学科及び工業系学科の卒業祝賀会を協賛。
- ・ 商船学科卒業生の全日本船舶職員協会への入会勧誘に協力。
- ・ 合同進学ガイダンスへの協力。
- ・ 近藤真琴先生記念碑周辺整備事業（草刈2回）実施。
- ・ 全国規模の体育大会出場学生及び学術コンテスト入賞学生に奨励金の贈呈。
- ・ 東海・北陸地区ロボットコンテスト支援。
- ・ 母校の海学祭に協賛する。
- ・ NPO 法人故郷の海を愛する会への協力。

平成 25 年度会計報告

損益計算書

自 平成25年4月1日～至 平成26年3月31日

収入の部 比較増減=決算-25年度予算

科 目	25年度予算	決算額	比較増減
会費	3,751,000	3,487,890	-263,110 ★1
入会金	80,000	34,000	-46,000 ★2
寄付金収入	700,000	587,578	-112,422 ★3
寄付金 全船協	160,000	160,000	0
パナー広告収入	160,000	150,000	-10,000
雑収入	300,000	460,000	160,000 ★4
受取利息	5,608	5,466	-142
収入小計	5,156,608	4,884,934	-271,674
繰越金取り崩し額	392,933	685,103	292,170
合計	5,549,541	5,570,037	20,496

支出の部

科 目	24年度予算	決算額	比較増減
負担金	565,000	561,800	-3,200
総会費	1,177,893	1,148,520	-29,373 ★5
会報	890,520	841,395	-49,125
対外活動費	417,000	464,389	47,389 ★6
支部活動費	670,000	670,000	0 ★7
慶弔費	50,000	89,799	39,799
旅費交通費	465,000	381,000	-84,000
事務消耗品費	221,550	222,375	825
会議費	5,000	0	-5,000
会務運営費	194,238	427,419	233,181 ★8
外部委託費	600,000	600,000	0
事務室備品償却	163,340	163,340	0
予備費	130,000	0	-130,000
雑支出	0	0	0
合計	5,549,541	5,570,037	20,496

- ★1 予算(予想)大幅下回りました。
- ★2 入会金支払い減少。
- ★3 予算(予想)大幅下回りました。
- ★4 新会員名簿予約売上と海学祭のそば店売上が貢献。
- ★5 中部支部から寄付(総会時に寄付を募った)含む。
- ★6 攻玉社創立記念式典祝儀などが増えた。
- ★7 前年度より減額している。
- ★8 X P対策で新たにPCを購入。 ホームページ関連費用は減少。

◎支出はほぼ当初予算通りでしたが、収入が予想を下回った。結果として¥70万近い金額を取り崩すこととなった。

貸借対照表

資産の部 流動資産 * 比較増減=期末-期首

勘定科目	期首金額	期末金額	比較増減
[現金・預金]			
現金	0	0	0
普通預金	2,106,158	1,124,753	-981,405
定期預金	24,463,708	24,468,950	5,242
現金・預金合計	26,569,866	25,593,703	-976,163
[他流動資産]			
勘定科目	期首金額	期末金額	比較増減
仮払金	0	300,000	300,000 ★1
未収金	0	120,000	120,000 ★2
他流動資産合計	0	420,000	420,000
流動資産合計	26,569,866	26,013,703	-556,163

有形固定資産

勘定科目	期首金額	期末金額	比較増減
事務所備品	490,020	326,680	-163,340 ★3
有形固定資産計	490,020	326,680	-163,340
資産の部 合計	27,059,886	26,340,383	-719,503

負債・資本の部 負債

勘定科目	期首金額	期末金額	比較増減
仮受金	0	0	0
会費預り金	4,168,000	4,024,000	-144,000
終身会費預り金	1,524,000	1,614,000	90,000
故郷の海を愛する会	140,000	0	-140,000 ★4
未払い金	0	159,600	159,600 ★5
負債合計	5,832,000	5,797,600	-34,400

剰余金

勘定科目	期首金額	期末金額	比較増減
別途積立金	20,000,000	20,000,000	0
繰越利益	1,227,886	1,227,886	0
当期純損益金額	0	-685,103	-685,103
剰余金合計	21,227,886	20,542,783	-685,103
負債・純資産合計	27,059,886	26,340,383	-719,503

- ★1 THCへ業務委託費先払い
- ★2 未入金があったが、4月に回収済み。
- ★3 残り2年
- ★4 精算完了
- ★5 4月に支払い済み

会計監査報告

平成 25 年度期初、期末の銀行等の残高証明の確認を行い、今年度収支に関しては領収書、金銭出納帳、各銀行などの出納記録と照合して監査した結果、正確かつ適正であったことを認めます。

平成 26 年 5 月 31 日

会計監査 飛田 喜八郎
 会計監査 川口 心也



平成 26 年度予算

自 平成26年4月1日～至 平成27年3月31日

収入の部		比較増減=26年予算-25年実績	
科 目	25年度実績	26年度予算	比較増減
会費	3,487,890	3,534,000	46,110
入会金	34,000	0	-34,000 ★1
寄付金収入	587,578	600,000	12,422
全船協助成金	160,000	150,000	-10,000 ★2
パナー広告収入	150,000	150,000	0
雑収入	460,000	2,190,000	1,730,000 ★3
受取利息	5,466	5,466	0
収入小計	4,884,934	6,629,466	1,744,532
繰越金取り崩し額	685,103	-263,966	-949,069
合計	5,570,037	6,365,500	795,463

支出の部

科 目	25年度実績	26年度予算	比較増減
負担金	561,800	570,000	8,200
総会費	1,148,520	1,100,000	-48,520
会報・会員名簿	841,395	1,740,000	898,605 ★4
対外活動費	464,389	410,000	-54,389 ★5
支部活動費	670,000	670,000	0
慶弔費	89,799	50,000	-39,799
旅費交通費	381,000	475,000	94,000
事務消耗品費	222,375	235,000	12,625
会議費	0	5,000	5,000
会務運営費	427,419	247,160	-180,259
外部委託費	600,000	600,000	0
事務室備品償却	163,340	163,340	0
予備費	0	100,000	100,000
雑支出	0	0	0
支出合計	5,570,037	6,365,500	795,463

- ★1 今年度から新入会員から入会金は徴収しない事としました。
- ★2 故郷の海を愛する会への全船協支援金。
- ★3 新会員名簿の売り上げと広告掲載料を含む。
- ★4 新会員名簿の発行費用を含む。
- ★5 全船協からの支援金¥15万含む。

◎新会員名簿販売と広告料により、今年度は繰越金の取崩し無し。

同窓会会費 納入のお願い

円滑な同窓会運営に、ご協力ください。
滞納の方は分割にてお取扱い致します。

平成 26 年度 同窓会役員・理事

本部

会 長	1	菱田 司 S35E	事務局長	10	江崎 隆夫 S44E
副会長	5	山田 岑生 S37E	事務局		武部 二三男 S38N
		藤本 昌之 S42N			溝井 昇 S42E
		金田 護 S42N			三井 健次 S43E
(会長代行)		田中 三郎 S42N			八木 菊平 S43E
		菅沼 延之 S48N			川原 伸次 S44N
相談役	5	松本 暢生 S26N		山口 伸輔 S48N	
		桑嶋 収平 S31N		西山 明 S50E	
		菅原 昌男 S33N		畑 辰幸 S51N	
		松浦 肇 S36N		北端 大志 H8N	
		中澤 昌信 S37N	学校連絡	1	江崎 修央 H4M
会計監査	2	飛田喜八郎 S36E			
		川口 心也 S40E			

名誉顧問	1	落合 弘明 前同窓会長
特別顧問	3	藤田 稔彦 学校長
		石田 邦光 副校長
		豆本 博一 事務部長

- 会長指名
- 事務局新任
- 顧問交代

支部

北海道支部	2 (2)	伊勢志摩支部	13 (13)
支 部 長	奥田 宣夫 S48E	支 部 長	古川 昭一 S30E
理 事	吉田 均 S49N	理 事	山神 慎之亮 S30E
東日本支部	10 (10)		大西 彰夫 S36N
支 部 長	水野 正治 S43N		武部 二三男 S38N
理 事	菱田 司 S35E		金田 護 S42N
	岩田 仁 S38E		溝井 昇 S42E
	田中 三郎 S42N		三井 健次 S43E
	大橋 泰夫 S48N		江崎 隆夫 S44E
	大橋 秀章 S49N		川原 伸次 S44N
	菅原 秀樹 S51N		山口 伸輔 S48N
	星野 芳昭 S52E		塩野 明俊 S56E
	桜井 薫 S54N		上村 健太 S63E
	真治 正章 H8N		江崎 修央 H4M
中部支部	6 (6)	関西支部	7 (7)
支 部 長	加塚 伸吾 S52E	支 部 長	籠田 弘之 S39N
理 事	竹川 俊幸 S42E	理 事	藤本 昌之 S42N
	小林 正司 S43N		岡崎 和清 S48E
	菅沼 延之 S48N		澤 裕之 S53E
	宗接 万太郎 S48N		村田 佳久 S55N
	荻野 武彦 S53N		国安 政幸 S58N
四日市支部	4 (4)		福田 美和 H7N
支 部 長	室 博也 S55N	西日本支部	2 (2)
理 事	中澤 昌信 S37N	支 部 長	山下 文徳 S41E
	山田 岑生 S37E	理 事	中野 正義 S41N
	西井 育央 S61E		

同窓会の活動

母校の発展と海事思想普及の為、同窓会が主催若しくは協力して以下の活動を行いました。今後とも同様の活動を継続して行いたいと考えます。
同窓会ホームページに関連記事がありますのでご覧ください。

2013年9月以降

商船学科卒業式挙行 謝恩会開催

9月29日、快晴に恵まれ、母校に於いて第42回商船学科卒業証書授与式並びに第7回専攻科（海事システム学専攻）修了証書授与式が挙行され、商船学科航海コース15名機関コース13名に卒業証書が、更に専攻科海事システム学専攻1名に修了証書が手渡され、全員元気に巣立って行きました。卒業生の保護者の方々も嬉しそうでした。

それぞれ海上・陸上に就職が内定、又、大学・母校専攻科への進学が決まっています。同窓会は皆さんの前途に幸多かれと願っています。卒業おめでとう！



攻玉社創立150周年 記念式典に参列

10月2日に校租近藤真琴翁が創立した東京の攻玉社学園の創立150周年記念式典・祝賀会が執り行われました。おめでとうございます。母校から藤田学校長、同窓会から菱田会長が参列しました。



同窓会 HP の「母校並びに同窓会のあゆみ」には以下のように記述されています。

- 1863年 校租近藤真琴が江戸四ツ谷坂町鳥羽藩邸内に蘭学塾を開く。
- 1869年 海軍操練所内に塾を移す。塾名を「攻玉塾」（後の攻玉社）とする。蘭学・数学・測量・航海術等を教授する。（海軍操練所予科となる）
- 1875年 近藤真琴 現東京都港区浜松町に航海測量習練所を開設。
- 1881年 近藤真琴 三重県鳥羽に商船學分校を開校。生徒数18名。

課外活動支援金授与式

11月11日昼、25年度学生課外活動支援金授与式を母校百周年記念館2階で行いました。同窓会の武部理事がプレゼンターとなり、江崎事務局長が司会進行、古川伊勢志摩支部長他が立ち会い、集まった学生たちに夫々支援金・報奨金を手渡しました。この中には全国高専プロコンの自由部門で優勝した学生たちへの報奨金も含まれています。今後の活躍に期待しましょう。



近藤真琴記念碑周辺 草刈り実施

11月11日朝から母校近藤真琴記念碑周辺の草刈りを母校山下事務部長+西岡事務局員+古川伊勢志摩支部長以下同窓生9名で行いました。

この草刈りは恒例となり年に二回伊勢志摩支部会員で実施しています。当日は天候に恵まれ、又、学校から大型草刈り機2台、普通の草刈り機8台を借り受け、作業ははかどおり、一日で終える事が出来ました。御苦労さまでした。

作業が終わったころ、攻玉社学園の修学旅行生徒がバス4台で学校に立ち寄り、百周年記念館・近藤真琴記念碑を見て帰りましたが、すっかりした所を見てもらえてよかったです。



同様の草刈りを今年の6月16日に行いました。

海学祭 開催

11月17日母校で学生主催の海学祭が盛大に開催され、たくさんの来客でにぎわいました。

多くの模擬店、早食い競争、ミスコン？、それに若い人たちに負けず伊勢在住の50歳前後の10名のオジサンによるオジサンダンスが良かったですね――。

添付写真は海学祭での同窓会本部受付。多くの同窓生の来場を期待しましたが、。



海学祭 長老庵そば店 開店

恒例となった武部理事夫妻の「長老庵そば店」が今年も海学祭で開店となりました。

3年目となりますが、常連客もできています。

「毎年来ています。今年で3年目。おいしいので楽しみにしています」 女性。

「なくなるのが心配で開店後すぐきました。おいしくて評判ですね」 女性。

今年はメニューが「カレー南蛮そば」「月見そば」「キツネそば」それぞれ¥500。

伊勢市河崎町の「町屋とうふ」から買ってきたアゲ、キツネそばのトッピング、これがおいしくて一番の人気でした。

売り上げ¥100000、全てそのまま同窓会に寄付。何から何まで、武部夫妻に感謝感謝。



近藤真琴パネル展 故郷の海を愛する会活動報告

海学祭で百周年記念館を一般開放し、「近藤真琴パネル展」「故郷の海を愛する会の活動報告」を行いました。多くの来館者が有りにぎわいました。



故郷の海を愛する会の活動その③

故郷の海を愛する会の活動その③「商船学校の歴史・



船と海の話」は12月14日近隣の小中学生51名の参加を得て、無事に終了しました。

その際に、同窓生の塩野さんが「校祖近藤真琴の話」を子供達にしてくれました。

学校側の設備の使用許可に加え、先生生徒の協力もありました。子供達が船を知り、海と人の関わりを知るいい機会になったと思います。

NPO法人故郷の海を愛する会は伊勢志摩支部の有志が立ち上げた団体です。別途活動の様子を紹介します。

工業系卒業式・修了式挙行 謝恩会開催

本年の3月3日、天候に恵まれ、母校では第25回電子機械工学科、第22回制御情報工学科卒業証書授与式並びに第8回専攻科(生産システム工学専攻)修了証書授与式が挙行されました。卒業生のみなさん頑張ってください。同窓会は応援しています。

今回の卒業式は従来と比べ在校生の参列者が少なく感じました。在校生は春休み中であり、今回から強制参加ではなくなったとの事でした。ややさびしく感じました。

写真は謝恩会の様子です。



2014年4月以降

第44回戦没・殉職船員追悼式

5月14日横須賀市の観音崎公園内にある「戦没船員の碑」の前で、追悼式が催されました。

浦賀水道と遙か太平洋を望む高台での戦没・殉職船員の追悼式は最高の場所です。

戦没船員60609名、殉職船員2964名の御霊が奉安されています。



同窓生も多数奉安されています。彼らの冥福と海上の安全を祈りました。

鳥羽商船同窓会は協賛会員であり、毎年献花しています。

商船学科5校合同進学ガイダンスが開催

日本船主協会主催の国立高等専門学校(商船学科)5校合同進学ガイダンスが、6月28日広島、7月6日横浜、7月20日神戸で開催され、商船高専受験を目指す受験生と保護者が多数参加しました。

それぞれの会場では同窓会の各支部が応援にかけつけ、ガイダンスを盛り上げる手伝いをしました。

写真は神戸の会場の様子です。



NPO 法人 ^{ふるさと}故郷の海を愛する会

会長 古川 昭一 (S30E)



◇活動 6 年目を迎えて：
当会が活動 6 年目を迎えることができましたことは、ひとえに同窓生の皆様のご理解とご支援のお蔭と感謝しております。

今年度で NPO 法人として 2 年目を迎え、更なる飛躍に向け活動しております。この 2

年間で大きく変化してきた事は、NPO 法人化により、同窓生以外の一般の方々にも広く入会して頂き、事業への参加協力や資金援助をして頂いた事です。また同窓会・伊勢志摩支部の資金援助だけでなく、日本財団や同窓会諸先輩の紹介斡旋を頂き、日本海事センター・日本中小型造船工業会・日本海事広報協会・全日本船舶職員協会・全日本海員組合から助成金を頂くことが実現できたことです。

しかしながら、年間事業予算の内、当会自身で調達できる資金が 25% 以上集められる事を助成金交付の条件としている団体もあります。当会で集められる資金は、会員の年会費、事業参加費、そして基本となる資金は同窓会会員と当会の正会員である方々の寄付金となります。

同窓会の支援なくしては継続不可能となります。

よく遠方の同窓生に入会をお願いすると、鳥羽と離れているからお手伝いできないので、と断られることが多々あります。遠く離れていても故郷の海、母校を思う気持ちがあれば、遠くからのエールと年会費と少しだけでもご寄付頂ければ、心強い限りです。是非とも入会して応援して頂けるようお願いいたします。

現在 正会員 (個人) 75 名

正会員 (団体) 2 団体

賛助会員 9 名 となっております。

正会員 75 名の内 30 名は学校職員及び一般の方々で占めております。ますます社会的にも存在価値のある NPO 法人に成長していくには、100 名以上の正会員を達成したいと思えます。

NPO 法人 故郷の海を愛する会 会員募集中

◇団体の信頼度・知名度アップをめざす

当初の目標としていた、日本財団が提供する公益事業のコミュニティサイト CANPAN で 5 ☆ を取得出来た事です。これは日本財団より情報公開、事業会計、事業内容などについて社会的に信用して頂ける最高ランクのお墨付きを得られたことです。

また、セイラビリティ伊勢さんの全面的な協力により実現したヨット試乗体験です。まさしくヨットは「海への夢の扉」だと思います。私たちの会が目的とする海への「希望と憧れ」の第一歩に通じるものでもあります。

近隣の海洋少年団・スポーツクラブ・等とも交流し定款の定める目的を達成していきたいと思えます。

先日大型量販店で会の文房具を購入し、領収書の宛先は、NPO 法人故郷の海を愛する会として下さいと告げ

ると、店員さんにはこりと笑い、名前を聞いたことがありますよ、素敵な名前ですね、良いことやっている団体さんですねと言われた。私は嬉しくもあったが名前に恥じない活動をやっていきたくつくづく思いました。

このように少しは地域で名前が知られるようになってきているようですが、活動に参加した子供達の保護者から「知らなかった」と言う声をよく聞きます。

そこで、我々は会の知名度を上げるべく、三重県の中南勢地区の市町・教育委員会へ後援をお願いする事に加え、広報紙へ募集案内の掲載をお願いしました。新聞社にも募集や活動の様子を記事にしてもらいました。中部運輸局に後援と募集活動のプレスリリースをお願いしました。

加えて、昨年从中南勢地区一番のショッピングモールイオン明和店で活動の紹介・募集案内を行っています。



写真は 2014 年 7 月 5 日に実施した様子です。地道な活動を今後とも続けようと思っています。

◇活動の報告：

「NPO 法人故郷の海を愛する会」の活動報告については、同窓会 HP をお借りしてお知らせしております。また日本財団の提供する CANPAN ブログでも見ることが出来ます (<http://blog.canpan.info/umiwoaisurukai/>) が、インターネットを使われない方もいらっしゃると思われまので、紙面を借りて会報では未報告の昨年末のイベントから紹介させていただきます。

2013 年 12 月 14 日 2013 年度活動その③

「商船学校の歴史・船と海の話」が 51 名の小中学生を集めて実施となりました。

「校祖近藤真琴の話」を同窓生の塩野さん (S56E) が子供達に解りやすく講演してくれました。私たちが知らないことが多く興味深く聞かせてもらった。故郷の海を愛する会定款第 5 条に謳ってありますが、郷土の誇る明治の教育家「近藤真琴翁」の偉業を多くの人に知ってもらう事業の一環として計画しました。鳥羽市でも郷土の偉人真珠王の御木本幸吉・千代田生命の創始者門野幾之進と並び称して大々的に近藤真琴を売り出す動きにあり、実にタイミングの良い企画・講演であった。近藤真琴の名前や功績が広く郷土で認知されることが母校発展につながるものと確信しています。今後とも力を入れていきたい。そのほかに、笑顔をつくるコンピュータ技術、母校准教授江崎さん (H4M)・ウミガメの話、講師 鳥羽水族館 若林郁夫さんの講演があり、プロコン出展作品「かぞくぐるみ」「すなケッチ」「たこのハっちゃん」

などの全国大会で受賞したロボットなどを体験し子供たちは大興奮であった。その他にも・ロープワークを体験・ディーゼルエンジンを動かそうなど多彩な体験をしてもらった。



2014年7月25日 2014年度活動その①

故郷の海を愛する会の「海から始まる物語 IN 2014」活動その①練習船「鳥羽丸」で行く造船所見学が地域の小中学生47名を集め、実施されました。

真夏の大変暑い中、子供達は鳥羽丸での航海、船内での種々体験と津のJMU造船所見学を楽しみました。帰途では秘かに手配した海上保安庁の救難ヘリが挨拶に飛来し、子供達は大喜びでした。

故郷の海を愛する会ではこのような活動を通じて子供達が世界に繋がる海や船を知り、将来の夢を膨らませて欲しいと考えています。



故郷の海を愛する会 第2回「ヨットに乗って風と語ろう」の活動に向け子供達への指導の為にアクセスディンギー（セイラビリティ・イセ所有）の練習を積んできました。

2014年8月23日 2014年度活動その②

故郷の海を愛する会の活動「海から始まる物語 IN 2014 活動その②ヨットに乗って風と語ろう」は、伊勢市大湊町にあるゴウリキマリビレッジでセイラビリティ伊勢の多大なる協力を得て、中南勢地区の小中学生39名が参加して行われました。

午前中はアクセスディンギーにインストラクターと子供1名ずつが乗艇し、ヨットの操船の仕方を教わりました。午後には子供2名ずつが乗艇し、子供たちだけでヨットを操船しました。初めは「できないよー」と言っていた子供達ですが、直ぐに慣れて、立派にヨットを操っていました。覚えるのが早い事にびっくりです。

待ち時間は「ヨットの講義」「大湊の造船等の歴史」「結索体験」等を行い、色んな事を体験し、学びました。

最後には子供たちだけでヨットレースを計画していましたが、生憎の雨が止まず、中止としました。子供達は残念がっていました。



今年度はあと3回のイベントを計画しています。

第3回イベント (10月11日)

潮騒の島、神島の自然と伊良湖水道

第4回イベント (海学祭11月2日)

海学祭に参加し郷土の偉人近藤真琴の業績を学ぼう

第5回イベント (12月末)

水先案内人になって操船しよう

最後に重ねて同窓会の皆さん、ご支援の程宜しく願います。

(文責 S43E 三井 健次)

ご賛同寄付ご芳名

NPO法人 故郷の海を愛する会

氏名	卒業年次	金額	氏名	卒業年次	金額
大西彰夫	S36N	30,000	山下文一	一般会員	10,000
西濱卓己	S54N	10,000	畑内康孝	S52N	10,000
小甲 和己	S43N	20,000	長谷川秀文	教職員	2,000
菅沼延之	S48N	50,000	荒井美喜三	S30E	10,000
長谷川真佐雄	S44E	10,000	金田護	S42N	10,000
佐藤善喜	S30N	3,000	井上民規	S43N	2,000
柴原美満	S42N	5,000	鈴木晴敏	S54N	1,000
山田猛敏	一般会員	10,000	小山道夫	S49N	1,000
毛利純一	教職員	2,000	中村 映	S50E	1,000
冢田和良	S39N	2,000	神子 巧	S48E	1,000
松浦肇	S36N	1,000	杉岡 禪行	S50E	1,000
山下文徳	S41E	10,000	藤田稔彦	学校長	50,000
徳島博	S30E	10,000	大櫛富司	一般会員	5,000
水野正治	S43N	10,000	古川昭一	S30E	20,000
三村徳蔵	S40N	10,000	岩本有生	S30E	10,000
テクノマリン(株)			明るい社会づくりの会		
山口 秀	S40E	50,000	会長 山田孝生	S37E	30,000
				合計	397,000

H25/9/1~H26/8/31迄に寄付を頂いた方々
寄付は年間を通して受け付けております

学校だより

平成25年9月～平成26年8月

◎年間行事（暦順に掲載）

平成25年度専攻科（海事システム学専攻）入学式

平成25年度専攻科（海事システム学専攻）2名を迎える入学式を10月1日（火）に挙行了しました。藤田校長から励ましの祝辞が述べられた後、入学生代表が、これからの活躍を宣言してくれました。入学生たちはやや緊張の面持ちながら、新たなスタートを迎え、希望に満ち溢れた様子でした。

練習船鳥羽丸 名古屋港にて 帆船「日本丸」のセイルドリル見学航海を実施



航海訓練所の大型帆船「日本丸」の名古屋港寄港に合わせ、11月9日、本校練習船「鳥羽丸」の一般公開と「日本丸」のセイルドリル（帆を張る作業）の見学航海を実施しました。「日本丸」のセイルドリルが披露され、一般募集の見学者48名が「鳥羽丸」にて洋上から、中学生17名が「日本丸」船上からセイルドリルを堪能しました。

校内マラソン大会を開催

平成25年12月4日（水）に全学生参加の校内マラソン大会が開催されました。校内マラソン大会は、堅神町内を周回する男子5.9キロ、女子4.2キロのコースで行われました。参加学生は、男子471名、女子68名で、当日は好天にも恵まれ、全員が完走することができました。

平成25年度 電子・制御卒業式並びに 生産システム工学専攻修了式を挙行

爽やかに晴れ渡る平成26年3月3日（月）、平成25年度電子機械工学科・制御情報工学科卒業証書授与式並びに生産システム工学専攻修了証書授与式を挙行了しました。藤田校長から電子機械工学科29名、制御情報工学科35名へ卒業証書を、専攻科生産システム工学科専攻8名へ修了証書が手渡されました。藤田校長から卒業生らに対し「皆さんがそれぞれどういう道に進むにせよ、本校で学んだことを誇りとし、自信をもってこれからの人生を歩んでいただきたい」と祝辞が述べられました。続いて、来賓である斎藤鳥羽市教育委員会教育長、菱田同窓会長より、御祝辞をいただきました。式の最後には校歌斉唱が行われ、卒業生・修了生を祝福しました。

平成25年度運営諮問会議を開催

3月20日（木）に外部有識者による平成25年度運営諮問会議を開催しました。今回は、「鳥羽商船高等専門

学校機関別認証評価の評価結果について」、「鳥羽商船高等専門学校の平成25年度年度計画達成状況について」、「鳥羽商船高等専門学校の平成26年度年度計画について」を議題とし、伊藤教務主任が説明を行い、各委員からの助言をいただきました。

平成26年度本科並びに専攻科（生産システム工学専攻） 入学式を挙行

平成26年4月4日（金）本校第2体育館において平成26年度本科並びに専攻科の入学式を挙行了しました。商船学科42名、電子機械工学科46名、制御情報工学科42名の計130名の本科新入生を迎え、生産システム工学専攻に11名の進学者を迎えました。式では、藤田校長の入学許可の後、在校生が足踏みで新入生への歓迎の意を表しました。また、藤田校長から「実践的な工学の知識と技術を身につけ、創造力とリーダーシップを備えた逞しい人間に育てていただきたい」と式辞を述べられ、新入生を代表して制御情報工学科と生産システム工学専攻の入学生からそれぞれ、新しいスタートにあたっての抱負が読み上げられました。



データ処理解析装置一式（船用内燃機関システム）を導入

商船学科機関コースは、内燃総合実験室（工場地区南側）にデータ処理解析装置一式（船用内燃機関システム）を導入しました。本校練習船鳥羽丸など実船の機関制御室をモデルとした制御装置が設置され、船と同じようにエンジンの運転、監視が遠隔で行えるようになりました。

<システム内容>

1. 4サイクルディーゼルエンジン（3気筒 257kW）
2. 制御盤（テレグラフ、疑似FPP、CPPモード付）
3. 警報装置（機関室内パネル）
4. 動力計（水動力計、負荷装置）

最新鋭のシステムでエンジン運転方法やメンテナンスの学習ができ、エンジニアに必要な技能と技術の向上等が期待されます。さらに実践に近い状況で、迫力あるエンジン作動の体験や、研究用途としても活用が見込まれます。

操船シミュレータシステムと教育・訓練用電子海図情報表示装置を導入



商船学科航海コースでは、2号館3階に実際の船の運動性能モデルを用いてコンピュータ上で船を動かす操船シミュレータを導入しました。このシミュレータは、模擬船橋をそなえ、多種多様な船舶の運転が体験できます。具体的には本校練習船「鳥羽丸」等から巨大タンカーの他、様々な海域、時間帯（昼間・薄暮・夜間）、環境（気象条件・波高等）、視点（自船の船橋からの視点、他船からの視点）等、臨場感あふれる操船を体験できます。また、隣の航法教室には他校に先駆けて23台の実習端末を含む教育・訓練用電子海図情報表示装置（ECDIS）を設置し、先に紹介した操船シミュレータとのデータ連携も出来ます。これらの装置の導入により、従前にまして学生の実習においても、知識の習得のみならず、安全な運航に対する技能と技術の向上等が期待されます。

国立高等専門学校（商船学科） 5校合同進学ガイダンスを開催

一般社団法人日本船主協会主催の「国立高等専門学校（商船学科）5校合同進学ガイダンス」が6月28日（土）に広島、7月6日（日）に横浜、20日（日）に神戸の3会場で開催され、中学生および保護者等を対象に、3会場で計200名近くの参加がありました。



◎各種コンテスト

本校プロコンチームが鳥羽市長を表敬訪問

平成25年10月28日（月）、第24回全国高等専門学校プログラミングコンテストに出場した制御情報工学科チームの学生10名と担当教員1名、技術職員2名が鳥羽市長を表敬訪問しました。チームの学生から、自由部門での最優秀賞（優勝）と課題部門での優秀賞（準優勝）の受賞を報告しました。

最優秀賞の「すなケッチ！」は、砂場に自動的に色がぬれるシステムで、距離センサとプロジェクターを利用して実現しています。優秀賞の「かぞくぐるみ」は、ぬいぐるみを用いたテレビ電話システムで、祖父母と孫が離れて暮らしていても一緒に遊ぶことができます。木田市長からは、「両システムとも非常に面白く、若い人の頭で柔軟に考え、既成概念を打ち破った思考はすばらしい」と感想をいただきました。

プロコン、パソコン甲子園チームが三重県知事を表敬訪問

平成25年12月6日（金）、全国高等専門学校プログラミングコンテストの自由部門優勝の「すなケッチ！」チーム、課題部門で準優勝した「かぞくぐるみ」チーム、パソコン甲子園のモバイル部門でグランプリに輝いた「飛行記」チームの学生13名が、三重県の鈴木英敬知事を表敬訪問しました。

学生が開発したシステムを説明した後、知事から各チームへ祝辞を受けました。また、「各作品ともアイデア



アが非常に面白く是非使ってみたい。これからもこの三重県から活躍する人が増えるように頑張ってもらいたい。」との感想をいただきました。

BCN ITジュニア賞2014を受賞

プログラミングコンテストの自由部門で最優秀賞に輝いた「すなケッチ！」製作チームが、BCNよりITジュニア賞をいただきました。「BCN ITジュニア賞」は、特定非営利活動法人ITジュニア育成交流協会からの推薦を受け、ITに取り組む若者を対象としたコンテストで優秀な成績をおさめるなど、優れた技術を持つITジュニアの皆さんを表彰しています。



第3回小水力発電アイデアコンテストにおいて 学生優秀賞を受賞

3月22～23日に福井県鯖江市で開催された第3回小水力発電アイデアコンテストにおいて、本校電子機械工学科の学生5名が参加し、「学生優秀賞」を受賞しました。開発した小水力発電装置のテーマは「BOX小水力発電」で、プレゼンテーションやデモンストレーション審査、アプリケーション審査において、他校の学生や地域の住民等において高い評価をいただきました。

Digital Youth Award で準グランプリ獲得

4月12日に開催されたDigital Youth Awardのアプリ部門において、制御情報工学科の「かぞくぐるみ」チームが準グランプリと日本マイクロソフト株式会社賞を獲得しました。

Digital Youth Awardは、WDLC（Windows Digital Life Consortium）主催のコンテストで、アイデア部門とアプリ部門から成ります。両部門合わせると1000以上のチームがエントリーしています。



Imagine Cup 2014 世界大会出場

制御情報工学科の「かぞくぐるみ」が、7月下旬にアメリカシアトルで開催される情報技術を競う学生の世界大会「Imagine Cup 2014」へ出場しました。4月に開催された国内大会「Digital Youth Award」で準グランプリを獲得していましたが、このたび、マイクロソフト米国本社による審査を経て、日本代表として選出されました。テレビ電話機能を活用した縫いぐるみ型コミュニケーションロボット「かぞくぐるみ」は、組込み開発、ネットワーク制御、テレビ通話アプリといった多様な技術を組み合わせてシステムを構築している点が高く評価されています。

日本国内でプロの講師による英語プレゼンのトレーニングなどを受け、世界大会に臨みました。

その結果についてはP17に「イマジックアップ参戦記」として報告しています。

◎注目クラブ活動

2013 少林寺拳法世界大会 in Osaka, Japan に出場

8月24日(土)、25日(日)の両日、大阪市中央体育館において2013 少林寺拳法世界大会 in Osaka, Japan が開催されました。参加国数22カ国、参加人数3,000



名の大会に本校から3名の学生が参加しました。一般女子三段以上の部にM科4年の大戸笑菜さん、一般男女級拳士の部にM科3年生の夏山季士君、I科3年の吉川波希さんがそれぞれの部で日頃の練習の成果を発揮しました。24日は国内予選が行われ、25日は世界大会が行われました。惜しくも世界大会に進むことはできませんでしたが、貴重な経験になりました。

三重県高校総体男子5000m競歩で4位入賞

第64回三重県高等学校総合体育大会陸上競技の部が、5月30日(金)から6月1日(日)まで、三重県営総合競技場陸上競技場にて開催されました。本校から、男子5000m競歩(17名がエントリー)に出場した清水勇志君(電子機械工学科2年)が、猛暑の中24分

36秒05のタイムで4位に入賞しました。この結果、6月20日(金)から22日(日)まで、名古屋市の瑞穂公園陸上競技場で行われる第61回東海高等学校総合体育大会への出場権を獲得しました。東海地区の競歩は例年レベルが高いため、激戦が予想されますが、インターハイの出場権獲得に挑戦します。

第52回東海地区高専大会ソフトテニス競技 女子個人戦 優勝

平成26年6月28日(土)、29日(日)の2日間にわたり、第52回東海地区高専体育大会ソフトテニス競技が岐阜県瑞穂市の生津スポーツ広場テニスコートにて実施されました。大会当日は、梅雨にも関わらず天候に恵まれ、29日(日)に行われた女子個人戦において、制御情報工学科5年 富士井 沙希さん、制御情報工学科5年 山下 純加さんペアが優勝しました。この結果を受け、平成26年8月30日(土)～31日(日)に徳島県で開催される、全国高専体育大会ソフトテニス競技への出場が決定しました。



富士井さんは、第50回大会の個人戦でも3位入賞し、今回が2度目の入賞です。山下さんは、第49回、第50回大会の個人戦でそれぞれ3位に入賞しており、今回が3度目の入賞となりました。両名とも、これが学生最後の高専体育大会になります。悔いのないよう、全国大会でも活躍することを期待します。

三重県選手権男子5000m競歩で8位入賞

第77回三重県陸上競技選手権大会が、7月12日(土)から7月13日(日)まで、三重県営総合競技場陸上競技場にて開催されました。本校から、男子5000m競歩(参加標準記録を突破した16名がエントリー)に出場した清水勇志君(電子機械工学科2年)が、25分33秒67のタイムで8位に入賞しました。この結果、8月23日(土)から24日(日)まで、岐阜メモリアルセンター陸上競技場で行われる第57回東海陸上競技選手権大会への出場権を獲得しました。今回は怪我の影響もあって、東海高校総体(7位)で出した自己記録(22分44秒43)に大きく及びませんでした。東海選手権では自己記録の更新と入賞(8位以内)を目指します。

◎地域活動・地域貢献

公開講座「小学生のためのバレーボール教室」を開催

平成25年10月21日(月)、10月28日(月)に本校第2体育館で、「小学生のためのバレーボール教室」を開催しました。この講座は、バレーボールを楽しんでいる小学生を対象に、バレーボールの基本技術に関する練習方法など、日常のバレーボールに役立つ内容を2回にわたって学んでいただきました。初日にはパスやレ

シーブの練習方法を、二日目にはスパイクやサーブの練習方法を学びました。参加者16人が本校の重永准教授（日本体育協会公認コーチ）の指導により、にぎやかに楽しく声を出し合い練習に励んでおりました。受講者からは「今回学んだことをつぎの試合に活かしたい」といった感想がありました。

ヨット部がボランティア活動

平成25年10月26日（土）、8日（日）に伊勢市のゴリキマリンビレッジで全国からアクセスディンギー（身体障害者も乗船可能なヨット）選手が集まり、「平成25年第62回神宮式年遷宮奉祝アクセスディンギー大会」が開催されました。選手やその他100名を超える規模の全国大会であり、スタッフボランティアを含めると200名以上の参加者・協力者のもとでアクセスディンギーレースや伊勢伝統芸能の紹介・歓迎パーティーが催されました。本校ヨット部からも顧問と部員15名が運営ボランティアとして参加し、大会運営補助やヨット乗降介助を行ないました。

◎国際交流

イスタンブル工科大学と交流協定を締結

鳥羽商船高等専門学校は、3月11日にトルコのイスタンブル工科大学において、交流協定の調印式を行いました。



調印式では、藤田校長とイスタンブル工科大学 Mehmet Karaca 学長が交流協定覚書(MOU)を交わし、両校の関係者が列席しました。イスタンブル工科大学は1773年、当時の皇帝ムスタファ3世によって設立されたオスマン帝国海軍の技術学校が起源であり、世界でも3番目に古い技術系大学。今後、両校間で海事専門分野での情報交換や学生の交流などを行う予定です。また、鳥羽商船高等専門学校では、外国の学校との協定としてシンガポール・マリタイム・アカデミー、カウアイ・コミュニティカレッジに続き3校目となり、協定校との共同研究や教員・学生の派遣及び受入れについて一層の推進が期待されています。

シンガポール・ポリテクニク短期留学生在本校に滞在

3月9日から4月19日までの6週間、シンガポール・ポリテクニクからの学生三人が短期留學生として鳥羽商船に滞在しました。鳥羽商工会議所の協力の元、伊勢志摩地域を初めて訪れる外国人向けにウェブページを制作しました。留學生がウェブページを制作するにあたり、事前に観光スポットの調査を行いました。留學生は、鳥羽商船の様々な学年から選ばれたサポート学生と一緒に、伊勢・志摩・鳥羽の名所を散策しました。

◎公開講座

サイテクランド2014in鳥羽商船（公開講座）を開催

平成26年8月18日（月）から8月25日（月）にかけて、サイテクランド2014in鳥羽商船（公開講座）を開催しました。



全部で6講座を開催し、延べ58名の小中学生が参加しました。本校教職員の指導のもと、さまざまな科学体験をした受講生からは、「楽しかった。また参加したい」「プログラムのしくみがわかってよかった」「とても楽しそうな学校だと感じた」などの感想がありました。

◎教職員人事

採用

・商船学科	助教	小島 智恵
・商船学科	助教	松井 茂春
・商船学科	助教	齊心 俊憲
・電子機械工学科	助教	脇坂 賢
・電子機械工学科	助教	亀谷 知宏
・制御情報工学科	助教	中井 一文
・一般教育	助教	内村 佳典
・一般教育	助教	三重野 雄太郎
・テクノセンター鳥羽丸操機手		金子 将也

転入

・事務部長	豆本 博一
・学生課長	塚原 祐子
・総務課調達係長	福田 雄一
・学生課入試・支援係長	内田 友和
・総務課施設係長	秦 克之
・学生課学生生活係	中田 絵美

◎同窓生の本校教職員

竹内 和彦 (S47E)	鳥羽丸機関長
松井 茂春 (S50N)	鳥羽丸船長
大野 伸良 (S56E)	鳥羽丸一等機関士
齊心 俊憲 (H1N)	鳥羽丸一等航海士
出江 幸重 (H3M)	制御情報工学科准教授
江崎 修央 (H4M)	制御情報工学科准教授
中井 一文 (H16I)	制御情報工学科准教授
竹内 晃輔 (H7I)	総務課施設係
吉岡 裕也 (H16E)	テクノセンター技術職員
濱口 沙織 (H17I)	テクノセンター技術職員
金子 将也 (H24E)	鳥羽丸技術職員

かぞぐるみとすなケッチ 学生頑張る！！ Good Job

今年話題は何と言っても縫いぐるみ型コミュニケーションロボット「かぞぐるみ」の世界大会出場でしょう。我が母校の制御情報工学科の学生が日本を代表してイマジンカップ2014年に参戦して来ました。

次に「イマジンカップ参戦記」を掲載しています。惜しくも入賞はなりませんでした。アメリカのシアトルでの世界大会に出場したことは快挙でしょう！！我々の誇りです。大変良く頑張りました。

「かぞぐるみ」の世界挑戦まで、都度、同窓会HPでお知らせしていましたが、関連する記事を簡単に紹介します。詳しくは同窓会HPを参照ください。
<http://tobacmtdousoukai.sakura.ne.jp/>

- 2013年
- 10月13日 全国高専プログラミングコンテストに参加
- 10月15日 全国高専プロコン 課題部門で準優勝！
- 2014年
- 4月11日 全国プログラミング決勝 準グランプリ
- 6月07日 「かぞぐるみ」世界一に挑戦



7月08日「かぞぐるみ」頑張れ！！



7月17日「かぞぐるみ」チーム 鳥羽市長訪問
「学生IT世界一狙う」鳥羽商船生 大会へ抱負
かぞぐるみチームは木田鳥羽市長の前でロボットを操

りながら英語でプレゼンテーション実演。日本人代表として優勝を狙いたいと抱負を語りました

7月20日「かぞぐるみ」新聞記事



8月02日 かぞぐるみ 残念！！
残念ながら入賞できませんでした。我々も朗報を期待して待っていましたが、グッドニュースは届きませんでした。それでも、大変良く頑張ってくれました。

かぞぐるみは何度も新聞・テレビ・ネットに登場し、おおいに鳥羽商船高専の名を全国に知らしめてくれました。

2013年の全国高専プロコンで、自由部門では最優秀賞・文部科学大臣賞に「すなケッチ」が選ばれました。課題部門では優秀賞に「かぞぐるみ」が選ばれました。又、2013年11月、パソコン甲子園でモバイル部門で「チームゆでたまご」がグランプリ獲得です。学生頑張っています！！

「すなケッチ」は昨年12月の故郷の海を愛する会の活動その③で見る事が出来ましたが、子供達は楽しくて大興奮でした。その「すなケッチ」は三重県の多気クリスタルタウンショッピングセンター脇にあるKid's US LANDに進出？しました。様子を見に行った日は生憎の週日だったので人出が少なく、その人気のほどがわかりませんでした。きっと休日は多くの子供達が楽しんでいる事でしょう。



 **イマジンカップ参戦記**

Imagine Cup 世界大会参加報告

制御情報工学科5年 宮村騎久也

2014年の7月29日から8月2日(現地時間)の5日間、私は米国のシアトルで開催されたITコンテスト、「Imagine Cup」に日本代表チーム「Kazokugurumi」の一員として参加してまいりました。「Imagine Cup」とは、マイクロソフトが主催する世界最大の学生向けITコンテストです。大会2日目にプレゼンテーション審査、2日目にデモンストレーション審査があり、3日目に表彰式で入賞者、チャンピオンが決定しました。結果としては入賞には届きませんでした。しかし、世界大会という大舞台で、多くの貴重な体験をすることができました。また、自分の足りなかった部分を知る学習の機会ともなりました。自分自身感じたこと、学んだこと



を綴っていきたいと思います。

まずこの世界大会を終えて、最も学習したことと感じているのは製品開発をとはどういうものか、ということです。私達は学校の授業で電気回路、機械、プログラミングなどを勉強し、ものづくりについて学びます。しかし、モノを作る前にはまずアイデアが必要になります。いくら技術力が優れていても、アイデアが無ければその技術力は活かせません。実際今回の世界大会でも、技術的に革新を起こしていたようなソリューションはあまりないと感じました。どの国のソリューションもアイデアが素晴らしく、既存の技術を上手く組み合わせ、これま



で無いものを作り上げていました。アイデアがあつてこそ技術は力になるということは製品開発において最も重要なことだと感じました。そして大きく他の国のチームとの違いを感じた点は、プレゼンテーションスキル、自分の作品を人に説明しアピールする力についてです。

特にプレゼンテーション、デモンストレーション審査で感じたことが、端的に、かつ分かり易く、自信を持った話し方をしていると感じました。自信を持って話す姿を見ると、その作品は書面での説明を読んだときよりも何倍も素晴らしく見えました。プレゼンテーション次第で作ったモノのイメージなどが大きく変わるのだということを実際にプレゼンテーションを見て感じました。

Imagine Cupでは世界のチームとの違いを感じたことのほかに、作品についてのアドバイス、良いところ、改善したほうが良い点など、好意的な意見を審査員や他の国のチームに頂きました。成長しなければいけない点を学ぶ機会でもあれば、自信を持つべきところについても教えてもらう機会ともなりました。1年以上努力を重ね、完成させていったものが評価されることは開発者として非常に嬉しいことです。

Imagine Cupに参加して、自分の新たな目標というのができた気がします。ここで得た経験を忘れず、これからの学生生活、人生に活かしていきたいと思えます。

最後になりましたが、本校同窓会にはこのImagine Cup、並びに高専プロコン等を通して多大なご支援をいただきました。心より感謝申し上げます。



先輩につながる
<http://tobashousen-dousoukai.com>

アゲインスト
 の 風 に
 小凶んで
 いないか？

支部だより

北海道支部

支部長 S48E 奥田 宣夫

支部便り～帆船「海王丸」

北海道支部会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか。日頃の活動が低迷気味で申し訳ありません。

さて、今回は、石狩湾新港に入港した航海訓練所帆船のイベントに少し関わったため、その様子をお知らせいたします。

海王丸(2556トン、110m)は、全国の海上技術学校及び清水海上技術短期大学校の実習生115名とともに石狩湾新港開港20周年記念イベントに合わせて初めて寄港しました。石狩湾新港の開港当時は、日本丸が入港しており20年ぶりの帆船の入港になります。「8月22日10時に接岸し、タグボートが歓迎の放水、保育園児が手作りの旗で出迎えた」とのニュースが北海道新聞で紹介されました。

23日は、13時から「セイルドリル」が始まり、一等航海士の分かりやすい解説を聞きながら14時頃に帆が張られました。当日は、風が強かったため34枚の帆のうち半分の17枚が実習生により張られましたが、十分美しい姿を見ることが出来ました。帆が張られた直後、見学者からの大きな拍手と歓声も聞かれ、感激した様子が窺われました。岸壁の近くでは、企業のブースや地元のアイドルグループ(フルーティー他)によるAKBみたいな歌も披露され、場を盛り上げていました。また、ヘリコプターによる上空からの遊覧飛行も楽しめ、石狩市が力を入れているのを実感しました。見学者は、札幌や小樽近郊からと思われる多数の見学者が訪れました。「帆船大好き」という若い女性も来られ、帆船の話で盛り上がりました。彼女は、横浜の日本丸にもよく行かれるそうです。

24日は、船内の一般公開が催され、駐車場から2kmと遠くにもかかわらず前日より多くの見学者が朝から夕方まで途切れなく訪れました。やはり、帆船は人を集める魅力があるようです。

私は、23日、24日の2日間、ある海事団体の帆船グッズ販売のお手伝いをしながら雰囲気を楽しむことが出来ました。この1年間、「海」との関わりが薄くなっていただけに、小樽海上技術学校の顔見知りの卒業生・保護者との再会も嬉しかった出来事でした。中には、「こうですよですね・・・?」と保護者から声をかけられ、息子がこの海王丸に乗船していると笑顔で話してくれたのを見て、船員を育てる仕事をして良かったと思えました。

8月下旬から秋風になり、もう少しすると冬の季節がやってまいります。北海道支部の皆様のご健康をお祈りいたします。

追伸：S28N卒、大島幸夫さん(79歳)が8月8日にお亡くなりになりましたのでお知らせします。大島さんは青函時代にお世話になった方で、数年前に函館で総会を開いたときに出席していただき、元気な姿を拝見していただいただけに残念でなりません。

東日本支部

支部長 S43N 水野 正治

初秋の候、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

最近集中豪雨や土砂崩壊など自然災害が続いています。被災された方々に心からお見舞い申し上げます。

さて東日本支部の活動状況ですが、昨年10月18日、横浜ナビオスにて東日本支部総会・懇親会を開催いたしました。一昨年は本部総会が東京で開かれたこともあり二年ぶりの支部総会でしたが、50名ほどの出席者で久しぶりの再会を喜び、話に花が咲いて楽しい一時となりました。

年初(1/11)には日本丸の遠洋航海出港を見送り、鳥羽商船実習生への差入れを実施しました。今年は横浜港新港埠頭5号岸壁(海上保安庁隣)から出航となりましたので、近くを散策する一般の方も多く賑やかな見送りとなりました。

5月14日の「日本戦没・殉職船員追悼式」には増田氏に出席して戴きました。同17日は攻玉社同窓会総会に菱田会長と私の2名が出席しました。毎回ながら120名近い盛大で賑やかな総会でした。同25日には第31回横浜港カッターレースに参加致しました。例年S51年卒業生主体のチームですが、今年はメンバー集めに苦労し出場が危ぶまれましたが高専17期の若手が加わりなんとか面目を保つことができました。

7月6日は合同進学ガイダンスが横浜港水川丸船内で開催されました。今年も各地の教育委員会・中学校に働き掛けて少しでも集まって貰えるよう力を尽くしました。当日は主催者側からOBがあまり目立たないようにとのお話もあり、上山氏と私の2名で参加し静かに見守ることといたしました。鳥羽ブースでは熱心に説明を聞き質問される方が多く、この中から一人でも多くの受験生が集まるよう祈っています。

最後に、東日本支部の総会懇親会を下記の予定で開催いたします。今年は土曜日の昼間、東京湾ランチクルーズを計画いたしました。ご家族ご同伴を歓迎いたします。皆様お誘い合わせのうえ是非ご参加戴きますようお願い申し上げます。

○平成26年度 東日本支部総会懇親会開催予定

・日時 平成26年10月25日(土) 10:30

受付開始 11:20 総会
(12:00 出港 14:00 着岸) 12:15 懇親会

・場所 東京都港区海岸1-12-2 東京ヴァンテアンクルーズ

・会費 6,000円

(20歳未満～中学生は3,000円、小学生以下は無料)

中部支部

支部長 S52E 加塚 伸吾

本年の本部同窓会総会が、6月8日に神戸において開催され、出席しました。

久しぶりの神戸であり、関西支部同窓生始め、その近隣の方との再会を期待し臨んだ結果、卒業以来かつ久しぶりの再会ができ、本会の開催に、ご尽力いただいた本部並びに担当支部の関西支部の方々に御礼申し上げますとともに、同窓会活動の継続に意義深く思うところです。

さて、中部支部同窓会会員のうち、港湾関係者として多く携わっている名古屋港をご紹介します。

名古屋港は、日本の中央に位置しており、1907年（明治40年）に開港し、4市1村（名古屋市、東海市、知多市、弥富市、飛鳥村）にわたる広大な陸域（4,215万㎡：日本一）と水域（8,194万㎡）を有しています。

物流、生産、防災、交流、の機能が備わった総合港湾として発展し、世界約160の国と地域と結ばれ、2013年（平成25年）の総取扱貨物量は2億8,241万トンと2年連続2億トン突破、12年連続全国1位、貿易額は16兆3,147億円と4年連続全国1位となっています。

自動車、工作機械、航空宇宙産業など、世界的ものづくり産業が集積する中部地域を抱え、産業と県・市民を支えています。

その名古屋港では、港湾管理者である名古屋港管理組合始め、伊勢三河湾水先区水先人会、船会社、港湾運送事業者等において、同窓生が活躍しており、業務上の連携を図るとともに、その方々には、日頃より同窓会活動へのご理解、ご協力を賜り、支えていただいています。

その支部活動の継続、発展とすること、ご理解、ご協力を得るため、毎年本部総会開催前に支部総会を開催し、大先輩から若輩までの幅広い年齢層の同窓生が出席し、親睦を深めています。

本年も5月27日に開催し、31名の方に出席していただき、懇親会の開催時には、各自、自己紹介を行い、閉会時には校歌斉唱し、交流を深めることができました。

ただし、出席者全ては商船学科であり、工業系の方の出席者を募ることが課題となっています。

名古屋港には、独立行政法人航海訓練所所属の練習船が航海実習の途上に寄港しており、本年5月には銀河丸が入港し、8月末に青雲丸、11月に海王丸、大成丸が入港予定となっており、本校学生が乗船している場合には、飲み物の差し入れを行っています。

また、毎年11月には、名古屋港の開港記念として開催する名古屋港開港祭フレンドリーポート開催期間中に本校練習船鳥羽丸が名古屋港に寄港し、来港者に対し一般公開を行う等により、本校のPRを行っています。そのおりに港界隈の同窓生を募り、表敬訪問し、学校教官との意見交換を行っています。

その他同窓会活動として、毎年数回ゴルフコンペを実施し、親睦を図っています。

以上のことが、例年の支部活動状況となっており、本年度も例年同様な活動となるものと思われませんが、若輩の同窓生、特に商船学科以外の工業系の同窓生が参加できる環境づくりを創設していかないと、今後の同窓会活動の継続、発展はなく、衰退するものと思われ、その手立てを試行錯誤しているところであり、同窓会全体、皆様方と一緒に真摯に取り組んでいきたいと思っていますので、よろしく願います。

四日市支部

支部長 S55N 室 博也

8月に入りましたが、今年は例年よりも台風が多いようです。

台風の季節になりますと、船乗りであった30数年前の船橋でのシーンを思い出します。

日本に向かう本船がバリントン海峡を通過して太平洋に入ったその先には大型の台風が北上しており、現在と

は比較にならない乏しい気象情報の中で、また、限られた時間の中で、どの進路を選択するかをチャートテーブルを前に苦悩するキャプテンと、その横にいる若い三等航海士のシーンを。その三等航海士はその時は何の役にもたちませんでした。ただ、判断・決断の難しさ・大切さを実践で学ぶことができたことが、その後の人生において大いに役にたったようです。「三等航海士=私」です。

台風にはそれがもたらす大量の雨が日本という島国の生命を支えているポジティブな面もありますが、私のような港湾に勤務する者にとってさえ、ましてや船舶に乗船の同窓にとっては、厄介なものに変わりありません。無事故を祈っております。

さて、私が四日市支部長をさせていただき、6回目の夏を迎えています。夏は四日市支部の活動期であり、役員会の開催による年間取組計画策定、総会への出席、支部総会の開催、四日市港まつりに参加の母校練習船鳥羽丸訪問が、毎年、行われてきたところです。

しかしながら、今夏で昨年までとは少し異なる点は、母校野球部が全国高校野球選手権大会三重大会に出場しなかったことです。チームの強弱は別にして、後輩である野球部員が日々の練習の集大成として、一発勝負の世界で展開するシーンを間近に観ることができるのは四日市支部ならではの「地域の特権」のようなもので、昨年から伊勢志摩支部と現地球場で合流・応援する等、盛り上がっていただけに残念です。

不参加の理由・背景は知りませんが、ぜひとも早期復帰されるよう、願うところです。

次にご報告しますのは、支部総会の結果です。

今年度は、7月19日〔土〕18時から、昨年と同じ近鉄四日市駅前の助六寿司本店で開催しました。最年長の昭和31年N卒（73期）の来栖さんから最年少の平成11年E卒（114期）の岡山さんまでの計20名の支部出席者に、本部からご出席いただいた江崎事務局長を加えて、賑やかに、楽しいひとときを過ごしました。

出席者は下記のとおりで、これからの皆様のご健勝・ご活躍を祈念しますとともに、今後も、引き続き、支部活動を盛り上げていただきたく、宜しく願ひ申し上げます。

また、今回ご欠席の支部会員の方々におかれましては、来年はぜひご出席くださいますよう宜しく願ひ申し上げます。同窓が集まってのビールは美味しいですよ！

【支部総会出席者（敬称略）】

本部事務局長江崎（S44E）、（以下、支部会員）来栖（S31N）、石垣（S37N）、中澤（S37N）、山田（S37E）、水谷（S38E）、山村（S39N）、服部（S43N）、鈴木敏行（S43E）、長谷川（S44E）、室（S55N）、田中（S56N）、西村（S59N）、山木（S59N）、井田（S60N）、笠松（S60N）、西井（S61E）、待井（H2N）、伊藤（H4E）、西村（H6I）、岡山（H11E）



平成26年度版（送料込 3000円）

同窓会会員名簿 好評発売中

ご希望の方は事務室にご連絡ください
「個人情報の取り扱い」にはご注意ください。譲渡禁止です。

伊勢志摩支部

支部長 S30E 古川 昭一

◎平成 25 年 11 月 17 日 (日) 海学祭

例年通り蕎麦店「長老庵」を開店。

店長 武部二三男 (S38N) 店員 川原伸次 同 畑辰幸、手伝い応援 武部奥様・川口奥様・三井奥様・山口奥様。



賑やかに大繁盛で店長以下休憩する暇もなく、皆様のご奮闘により 200 食完売。売上金同窓会へ・・・

◎支部総会 (合同クラス会) 開催

平成 25 年 11 月 23 日 鳥羽シーサイドホテル 汀館ホール
12:00 ~ 12:15 総会 菱田会長挨拶 他

12:15 ~ 14:15 懇親会

参加者 56 名 (NE34 名、MI22 名女性 5 名)

乾杯の音頭 福村藤右衛門氏 S19/12N 卒 会の中頃、ジャンケン大会副賞有で大いに盛り上がる。新旧校歌を斉唱。金田副会長の中締め、再会を約す。



◎平成 26 年 1 月 ゴルフ同好会「白菊会」発足

会長 柴原美満 S42N 幹事 川原伸次 S44N

4 月 23 日 第 1 回コンペ開催 12 名参加・フジエクスレント伊勢朝熊コース

9 月 22 日 第 2 回コンペ開催 伊勢 CC

現在会員 19 名 募集しています。

◎伊勢湾オープン参加

8 月 3 日 (日) 三重県津市ヨットハーバー主催 伊勢湾オープンヨットレースに出場するクルーザーに乗り、ヨットレースを味わいました。クルーザーの部には川口・三井・西山・私の四名が、ディンギーの部では畑氏が参加しています。

関西支部

支部長 S39N 籠田 弘之

私が住む神戸は梅雨には雨が少なく例年の 40% とのことで、梅雨明け後も猛暑で少雨でした。台風 11 号が関西地方を通過する数日前から雨の日が多くなり、兵庫県の赤穂市付近に上陸したところ風雨が一段と強くなり、我家近くの遊歩道の太い木の一本が根元付近から折れ、通せんぼうしていた。台風の通過後は暑さが戻るのかと

思っていたが秋を感じさせるような日々が続きました。

今年度は関西支部が本部総会・理事会及び懇親会を担当することとなり、開催準備・開催・議事録の作成等、理事幹事が一致協力し、盛会に終わらせることができた。

さて、昨年と同窓会報が出版された以降の支部の主な活動を下記まとめました。

下記項目以外に本部総会・支部総会の準備に対応するため理事幹事会を数回開いた。

1. 平成 25 年度関西支部総会・懇親会

昨年度は大阪で開催したので今年度は神戸にて開催しました。

出席者は昨年同様に S17 年 N 卒の会員から H12 年 N 卒の会員と年代層の幅広い参加者が集いその数 41 名の多数となった。

①開催日時及び場所

1) 日時：平成 25 年 12 月 1 日 (日) 12:30 ~ 14:30

2) 場所：楠公会館 (神戸 湊川神社境内)

②議事次第

1) 開会の辞

2) 支部長挨拶

3) 菱田会長から会員へのメッセージの紹介

4) 平成 25 年度支部活動報告

5) 平成 26 年度活動予定

③懇親会

支部総会終了後懇親会に移り、支部長挨拶後、S32 年 N 卒桑島相談役に乾杯の音頭をとって頂き、その後は歓談に移り、途中で各テーブルを代表しスピーチをお願いしました。会の後半に於いては新旧校歌・寮歌など先輩後輩の壁もなく入り乱れて歌い、盛り上がりしました。

最後の締めくくりに同窓会と皆様の健康を祈り S17 年 N 卒松沢さんに万歳三唱を頂き、26 年度本部総会及び支部総会での再会を期して懇親会は 14:30 時に終了した。

2. 平成 26 年度関西支部総会

例年は秋から晩秋にかけて支部総会を開いていたが今年度は本部総会・懇親会が神戸で開かれることから同時開催とした。

今回も年代層の幅広い 48 名と多くの会員が参加していただきました。総会と重ねたことで支部総会は支部長・理事 1 名で議事を進めた。

①開催日時及び場所

1) 日時：平成 26 年 6 月 1 日 (日) 11:15 ~ 11:45

2) 場所：神戸メリケンパークオリエンタルホテル

②議事次第

1) 開会の辞

2) 支部長挨拶

3) 平成 25 年度支部活動

4) 26 年度活動の予定

議案はすべて承認され、盛会の中 30 分で終了。

3. 本部総会準備・開催

平成 26 年度の本部総会は関西支部が担当することを受け、8 月中旬と 10 月下旬に理事幹事会を開き、総会の開催に向け、どのように進めていくかを打ち合わせた。

まず、4 年前は大阪で開催されていることから今回は神戸で開催することを確認し、候補ホテルを 2 ~

3箇所に絞り、各担当者を決め、その後の準備は支部長と各担当者で打ち合わせを行い順次進めていくこととした。その後、3月に総会開催準備状況の確認会議を開こうと通知したところ、年度末ということで各理事幹事は本職が忙しく同窓会の諸事に振り向けることができず、4月中旬にやっと集まることができた。その打ち合わせで開催日時を6月1日(日)、場所は神戸メリケンパークオリエンタルホテルと決め、ホテルから費用の見積もりを出させ、これに加えアトラクション費用を合わせ、本部事務局に打診した。本部事務局からこれに沿って進めるよう指示されたことを受け、本格的に総会開催に向け動きだした。

その後、本部事務局からのアドバイス、要望及び費用等についてメールのやり取りが繁盛になり、その都度対応した。

5月下旬に本部総会・懇親会に向け各理事幹事の担当(受付、同窓会名簿販売等)を指名、および当日の集合時間を決めて受付などに支障の無いよう確認を行った。

前日夕方に開催ホテルに会長、本部役員、本部事務局員及び支部理事が集まり会場の確認と最終打ち合わせを行い総会に臨むこととなった。

総会当日は多数の参加者に対応しなければならないことから事前に参加支部会員に手伝いをお願いし、これに対応した。支部理事・幹事だけではなく、支部会員の支えもあり無事に開催に漕ぎ着けることができた。総会・懇親会は盛会に終わり、支部理事幹事は無事に終了したことで安堵し、解散しました。勿論、会長、本部役員及び本部事務局員の多大な協力を惜しみなく注いでくれたことで盛会に終わらせられたことを申し添えます。関西支部から御礼申し上げます。総会・懇親会の出席者は110名でS17年N卒からH12年N卒と幅広い年齢層から多数の出席を受け、そのうち女性会員1名の参加でした。今後、女性会員も含め、各年代層からより多くの会員が出席し、同窓会を盛り上げてくださることを期待しています。

4. 国立高専(商船学科)5校合同進学ガイダンス

7月20日(海の日)に合同進学ガイダンスが神戸港 新港第一埠頭に接岸中の練習船

“青雲丸”船上にて日本船主協会の主催で13:00時より開催された。

関西支部から会員が2名参加し、母校ブースに於いて手伝いをした。

今年は参加者が例年に比べ若干少ないように感じた。しかし、彼らの受験に対する意欲は例年よりも強く感じ取れた。

鳥羽商船高等専門学校をはじめとして他校の存在が参加者から伝わり、より多くの生徒が興味を持つことを期待したい。

年目を迎えております。漸く、地域の人たちとの交流関係も生まれ、難解な地名などにも慣れてきましたが、いずれ克服するにせよ、未だ、九州名物料理とされる“もつ鍋”が苦手な状況にあります。

当地(福岡市)は、総合的な評価として、ストレスの少ない住みやすい都市とされる所為か、昨今、転入者が多く、此処3年で人口が10万人位増えて、150万人を超えました。当地に来られる折が有りましたら、近場の大宰府天満宮を含め史跡・神社・周辺観光地などを御案内しますので、是非ともお立ち寄り下さい。

6月21日(土)～22日(日)、例年の如く、「海峡ビューしものせき」1泊コースにて、西日本支部総会・懇親会を催しました。参加者は、昭和時代(S32年卒～S48年卒)の中高年の方?(集合写真ご参照)ばかりでしたが、強者(つわもの)どもが、夜が更けるのも忘れて懐かしき鳥羽の思い出を語り合いました。来年も同様、交通の便が良く、船が行き交う関門海峡が良く見え、時々汽笛も聞こえる「関門ビューしものせき」で、6月～7月に開催(土・日)予定ですが、支部の皆様は言うに及ばず、同窓会の皆様、お気軽に何方でも特別参加願えれば幸いです。

6月28日(土)に、広島に於いて船主協会主催(全船協会后援)の“合同進学ガイダンス”が開催され、応援のため小生が参加しました。当日は、やや早めに起床して、福岡の自宅から約3時間、開始時間に間に合わせ会場に到着しましたが、以前(2年前)開催された福岡会場での閑散とした状況から一変し、既に満席(約100名か?)の活況を呈していました。

各校ブースでの個別相談では、地理的優位性から“広島”をはじめとする瀬戸内3校は相応に行列が出来ましたが、“富山”は県名で兎も角も、残念ながら“鳥羽”は知名度?が低く、小生としては、親御さんに対し、彼の有名な伊勢神宮の近くとか、御木本パールなどの名称を出すなど、永い歴史を有する由緒ある学校であることを強調して、“鳥羽”のブースに可能な限り誘導する様に努力しました。其の後、横浜・神戸会場での同様のガイダンスが催された訳ですが、是非とも、本催しが海国日本を担う相応しい人財の確保に繋がり、勿論、本人に取っても遣り甲斐のある仕事が見付かる一つの機会となること願って止みません。

最後に、現在、本部事務局の協力も得た上で、西日本支部の名簿の修正作業に入っております。支部会員数は100名弱の小規模なるものの、岡山県の一部を除く中国・四国・九州・沖縄と範囲が広いのが特徴です。同窓会の皆様、仕事の関係での異動は基より、生活拠点の移動(引越)の際には、申すまでもなく、同窓会本部事務局(又は、各支部窓口)に連絡頂きたく、この場を借りて宜しくお願いしたいと思っております。

西日本支部

支部長代行(理事) S41N 中野正義

同窓会の皆様、お元気ですか? 今般、山下文徳支部長に代わり、支部便りを、お届けします。

私事で恐縮ですが、家庭(義母の介護)の事情から、永年住み慣れた横浜の地を離れ、福岡に転居して早や4



クラス会

S26年卒 クラス会を解散することになりました。

松本 暢生 (鳥羽在住)

毎年のようにクラス会を開いておりました、昭和26年卒(68期)のクラスですが36名で卒業し現在は17名で参加者も減少しております。

このたび解散を決めクラス会の残金を僅かですが同窓会の資金に使って頂きたく寄付いたします。

[秋田 清、磯村照夫、伊東 宏、加藤 実、鎌田 要、工藤 勇次、佐川 徹、三本松 昇、杉浦豊彦、田嶋弘茂、田中 健彦、田辺 定男、中島 史稜、浜口 幸、堀 三矢之助、松本暢生、三富 定]

高専13期同窓会

山木 聡

去る10月19日、鳥羽の扇芳閣にて13期生の同窓会を開催しました。

私たちは、卒業後間もなく“緊急雇用対策”の大量首切りと、近代化船の開始から失敗までを経験した世代で、流石にまだ外航船に乗っているという者はほとんどいませんでした。卒業以降初めての開催でしたが、北は北海道から西は九州より、夫婦2組を含む総勢25名の参加となりました。今回の会合は、“卒業名簿”だけではなく、13期生として入学して同じ時間を過ごし、卒業を待たずして志を変えた仲間も来てくれました。たとえ在学期間が短くても、すぐに30数年前にトリップ出来たことで、改めて“同じ釜の飯を食った者同士”の絆の深さを実感しました。

同窓会開催にあたり、在学中の古い名簿をひっくり返して住所を見つけ出してもすでに転居していたりと、結局連絡を取ることができなかった者がいたのは残念でしたが、引き続き情報を集め、何年後かにまた集まりたいと考えています。

参加者(五十音順) 石井孝仁 稲葉啓文 木本鐘守 葛上雅紀 小西芳徳 鈴木護 勢力勝之 津久井智一 永田明 中村巧 鍋田浩明 西村譲治 福村智章 古坂和志 前田徳久 松永直也 水谷昌昭 村田秀典 山木聡 山口和義 山下学 山本和之 漁野文俊



87.5期(高専1.5期)新年会(東京)

富岡 栄一郎

1月31日に新橋で新年会をしました。高専1期(87期)8名と高専2期(88期)2名参加でした。

左から、小出、矢野、小林、富岡、北野、根森(少し隠れている)、北、下野、田中秀紀、山本



商船学科31期生 同窓会

小島

2月1日に商船学科31期生の同窓会を鳥羽市の『烏治』で行いました。

学生時代にお世話になった担任の伊藤政光先生にもお会いすることができました。

懐かしい学生時代の話で盛り上がり、当時に戻ったようでした。

これからも身体に気をつけて、お互い頑張りとうと励ましあいました!!



H6 SMI合同同窓会

port of Yokkaichi

4月26日(土)に名古屋にてH6卒業組のSMI合同同窓会を開催しました。当日は、S科12名、M科1名、I科5名の18名が出席しました。

卒業してから20年、だいぶ体型の変わった方もいましたが、みなさん元気で何よりでした。

それぞれ、会社の中堅どころで苦労していると思いま

すが、また、再会を誓って解散となりました。
それぞれのクラスを取り纏めて頂いた幹事様お疲れ様
でした。



鳥羽商船第76期(国立第6期)同期会開催!

下川 公一

去る6月3日～4日、第76期(国立第6期)同期会
を大津プリンスホテル、ゴルフコンペを瀬田ゴルフ場にて、
80半ばになられる木戸名誉教授ご夫妻をお迎えして
拙幹事長の下、開催、同期の3分の1が既に旅立ち、
心身の故障者も多い中、天気にも恵まれ、70半ばにな
んなんとするツワモノが、各地から総勢18名、同じ釜
の飯を食った仲、おい、おまえと、昔話に、今の苦労話
に、カラオケに、宴会の締めは、琵琶湖周航の歌を全員
で歌い、4日はゴルフコンペに、旅行に、楽しい時を過
ごし、来年は野田幹事長の下、伊勢方面で元気に再会を
と、楽しかった余韻を胸に、帰路につきました。



参加者(敬称略) 木戸先生ご夫妻、石崎夫妻、神田夫妻、
野田夫妻、川井、長門谷、細川、船、猪野、奥野、小嶋、
須貝、下川夫婦。

フェリーに乗って東北復興支援同窓会

富岡 栄一郎

7月18日(金)仙台にて87期(高専1期)の同窓会
を仙台で開催しました。名古屋方面からは太平洋フェ
リーにて、九州並びに関東以北在住者は現地集合。総
勢12名が参加しました。

参加者(敬称略)は、小久江、坂本、水谷、宮川、根
森、川添、高井、田中孝、永井、橋本、深川、富岡です。
(添付写真参照)

翌日は、温泉巡りやゴルフ組に分散し現地解散。3名
は帰路も太平洋フェリーにお世話になりました。気仙沼
や石巻の被災地を視察した方もあり、災害復興に少し
でもお役に立てたのではと思っています。次回開催は関東
地方(?)予定です。わがままな年寄りの取り纏め、幹
事様に御礼申し上げます。



人物紹介

練習船「鳥羽丸」新船長・一航士 決まる

練習船「鳥羽丸」の新しい船長と一等航海士が決まりましたのでお知らせします。

船長 松井 茂春さん 昭和50年卒業、高専4期生
船乗りとして世界各国を回った経験があります。

趣味は「油絵」 6月1日採用

一航士 齋心 俊憲さん 平成元年卒業、高専18期生
船乗りとして日本各地を回った経験があります。

趣味は?? 5月1日採用

多くの経験を活かし、熱をもって学生指導にあたられることを期待しましょう。

キラリ☆人生

10月2日の中日新聞のシニアライフ欄、「キラリ☆人生」で「誰でも乗れるヨットの普及に努める」畑辰幸さん(S51N)が紹介されています。

畑さんは「セイラビリティイ伊勢」の会員としてアクセスディンギーを用いて障害者・子供・高齢者にヨットに親しんでもらう活動を行っています。

尚、畑さんは尾鷲のパイロットであり、同窓会事務局員でもあります。



帆船海王丸ボランティアと友の会

同窓生の清水等さん(S38E)は富山県高岡市に在住されていますが、初代海王丸のボランティアとして活動されているそうです。普段は機関保守担当であり、25年度展帆ボランティア精勤賞を受賞されたとのこと。伏木富山港・海王丸財団の機関誌「舵輪」にその記事が掲載されています。

又、「帆船海王丸友の会」が発足し、会員募集中とのこと、あわせて紹介します。

海と船の役割知って 船長が小学校で講演

1月28日付けの北日本新聞に「海と船の役割知って高岡市国吉小で船長が講演」記事が掲載されました。

日本船長協会の事業「子供達に海と船を語る」が1月27日、高岡市の小学校で開かれました。同協会の常務理事の山本丈司さん(同窓生 S52N)が小学5、6年生

あわせて約70名に外国航路の船長を務めてきた経験を話し、海と船の役割や大切さを伝えました。

現役の船長らが学校などで講演する同事業は、2000年度に協会創立50周年事業として始め、これまで全国120会場以上で実施したそうです。

新刊紹介

発刊の言葉 S15N

加藤 卓雄

この度、出版社(東京・文芸社)から拙著既刊行「太平洋戦争の真相に迫る」に加え「我々は君たちを忘れない」題名を併記し、再出版する事になりました。再刊行に際し、初版より充実したものにしたいと考え表紙カバーを改め、序文、その他の主要成分についても多く添削し、また、田中清定先生(元労働基準局長・大学教授)の著名なフレーズの部分を、巻頭に掲げてより多く改変しました。



訃報

西川慶堂元同窓会副会長逝去

西川慶堂様(S17N)ご逝去の報に接し、江崎同窓会事務局長と川原事務局員が告別式に参列して来ました。

斎場 鳥羽市答志町 潮音寺。

お亡くなりになった日 平成26年4月4日

西川さんの略歴

終戦後一時、保安庁に入庁後鳥羽市役所定期船課勤務、昭和58年鳥羽市会議員となる。

一方、鳥羽海洋少年団の団長ほか同窓会副会長としてご尽力される。(弔辞で聞き取り分)

また、生前に検体を提供する意思を表明されており、ご逝去後においても人の為に役立つことを貫かれたと聞き及んでいます。

ご家族の方々にお悔やみを申し上げますと共に、西川さんのご冥福をお祈りいたします。



昭和の風景

昭和30年代の岩崎棧橋近く丸形ビルの旅館で、1階のバスターミナルからは毎日何台も定期観光バスが出発。観光客で賑わいを見せた。

全日本船舶職員協会 会長 就任挨拶

S38E 岩田 仁

十一会から全船協へ
先輩の苦勞をしのぶ



◇会長就任

本年5月の総会後の理事会で社団法人全日本船舶職員協会会長に推挙され就任しました岩田仁です。

和田春生氏以来17年ぶりの鳥羽商船出身者の会長であり、全船協初代会長小山亮氏から数えて7代目の会長となります。

昭和5年創設した全船協の前身である全国商船学校十一会初代理事長から数えますと12代目となります。

全船協50年史を紐解くと十一会初代理事長の池田友助氏（粟島商船卒）から今日まで錚々たる方々が会の運営・維持にみなみならぬ努力を傾注されてきたことがよくわかり、会の継承の重さに身の引き締まる思いがしております。

昭和44年に全船協と名称を変えた際の初代会長小山亮氏（鳥羽商船入学、弓削商船卒業）も3代目会長の和田春生氏（航海科S11年卒）も衆議院議員として国政にも参画され予算委員会の海事関係審議では船員の立場で活躍された大先輩です。特に和田氏は全日本労働総同盟結成の立役者の一人として民主的労働運動に情熱を燃やした活動家でした。偉大な先輩たちに思いを馳せるたびに無学非才の我が身を嘆き反省とともに時代の変遷を思うばかりです。

全船協は平成22年夏に横浜MM21の日本丸メモリアル・パークで創立80周年を祝賀する「全船協ウィーク IN 帆船日本丸」を開催した。創設以来今年で84年となりますが、先輩たちの苦勞をしのび十一会から全船協への経緯を簡単に振り返ってみたい。

◇全国商船十一会の創設と当時の社会情勢

昭和5年の春、初代の練習帆船日本丸と海王丸が相次いで進水した。当時11校あった全国商船学校（函館、富山、鳥羽、児島、鳥根、粟島、弓削、広島、佐賀、鹿児島）の同窓会が力を合わせて建造運動を進めた結果であった。先輩たちはこの成果を踏まえ同窓会の大同団結を決意し11校同窓会の集合体として十一会（とういちかい）を結成した。

しかし、十一会の前途は多難であった。会誕生前年の10月に発生したニューヨーク株式市場の大暴落が世界恐慌の引き金となりその影響は日本経済を直撃し日本の海運界、船員社会を不況のドン底に突き落とした。恐慌による係船、船員過剰を背景に会結成後6年で4校が廃校に追い込まれた。

また、残った7校は戦後の混乱期の昭和21年に鹿児島商船・粟島商船の二校が廃校となり現在の5校体制となった。一方、十一会は昭和44年9月全日本船舶職員協会と名称を変え現在に至っている。

◇全船協の役割と基本的な考え方

全船協では年3回会報「全船協」を発行している。今年の夏の号は第126号でした。創刊号は昭和53年1月1日で当時の和田会長が年頭の挨拶で全船協の役割をまとめておられます。

今日、直面している状況はより厳しいものがありますが問題点と基本的な考え方は変わっておりません。要点をまとめますと

「全国商船学校十一会時代から練習帆船の建造や航海訓練所の設立、商船高専校への昇格とその整備拡充についてそれなりに役割を果たしてきた。しかし、これらはすべて過去のこと全船協が将来に向かって社会に有用な社団とし生きる糧にはならない。会員のための活動を通し、会員の働く社会と後輩の学ぶ商船学校への有益な寄与をすることによって全船協の存在価値が生じる。」と。また当時の会員の声として「全船協とは会員にとって何なのか?」「我々に何をしてくれるのか」「第一線で活躍する会員にとって全船協のメリットは何か?」といった古くて新しい会員の疑問・質問が並んでいる。

これが書かれてから36年の歳月が流れている。船員社会も様変わりし、日本の商船隊を支える船員はその多くが外国人となり、日本人はたった1~2%となっている。日本人船員の減少とともに当協会の主流メンバーである外航船で頑張る商船高専OBも減少した。

船員社会は変わっても、会員の協会に対する意識は変わっていません。和田会長時代も会員のメリットについての要望に応え会の活性化に努めた。しかし、会員のメリットについての疑問は払拭されなかった。この疑問は会員の一人一人が高い当事者意識をもって協会と向き合って行かない限り解消されないでしょう。会費だけを払っても自ら行動を起こさない限りどんな会に入ってもメリットは期待できないものです。行動力あふれる会員の入会を期待しております。一緒に日本の船員社会が元氣を取り戻す運動に汗を流しませんか。

◇今年度の協会の事業計画

会員のために役立つ協会活動をめざし以下の方針で取り組んでいます。

- ① 会員の獲得と会の活性化
日本の外航船社は外国船員から日本人船員へと採用を戻す気配もある。一度外国船員へと触れた振り子が日本人船員へと復するかのようである。しかし、当協会としては商船高専商船学科卒業生が就職先として選択するようになった内航海運にも目を向けております。また、高専同窓会連合会的な役割を持ちながら一部会員相互の情報交換や親睦をも諮ります。
- ② 組織等の見直しと事業評価制度の導入
事務局の業務内容の見える化により、業務の改善を図ります。約1年間の業務日報を作成し専門家による分析を行い業務の合理化・効率化に努めます。
- ③ 会員のデータベース見直し
現在のデータを洗い出し会員情報の改定と充実、データベースソフトのバージョンアップ。
- ④ 80年間の活動資料の整理と見える化
キャビネットに収まっている本部・神戸支部にある先輩たちの80年間の活動資料を整理し目録をホームページ上にアップします。

事務局全員の力を合わせ、船乗り仲間として世話になった船員社会への恩返しに努めていく所存です。同窓会会員の皆様のお理解とお力添えをお願いしたい。

全日本船舶職員協会のホームページ

<http://www.5b.biglobe.ne.jp/~zensen/>

会員の投稿

日光・湯元温泉ドライブ旅行

葛生化石

平成 25 年 11 月 本日は天候もよく、ドライブ日和。足の向くまま気の向くまま、日光方面となりました。紅葉の季節も終わったようで、道はそれほど混んでいません。まずは第二いろは坂の途中にある明智平からケーブルカーで展望台まで。



男体山には少し雪が積もりだしました。ケーブルカーは 16 名乗りでも一回待ち位いの混みよう。ちなみに料金は往復 720 円となぜか半端な金額。ケーブルカーで見晴らし所に行き、眺めた華嚴の滝と中禅寺湖です。(下の写真) 華嚴の滝の左側にも小さな滝があるのは初めて知りました。



白菊会 第一回ゴルフコンペ 開催



上左から畑辰幸、藤田校長、柴原美満、山口伸輔、市場安次郎、島田愛水、佐野昌彦
下左から川原伸次、古川昭一、溝井昇、江崎隆夫、須永博 (以上敬称略)

平成 26 年 1 月に発足したゴルフ同好会「白菊会」の待ちに待った第 1 回コンペを 4 月 23 日、富士 O G M 伊勢・二見コースで開催しました。出場メンバーは、写真のとおり 12 名でした。晴天に恵まれ、11 名の同窓生及び学校長は、スコアはともかく、先輩、後輩の壁を乗り越え和気藹々のムードでプレイを楽しみました。また、プレイ後はコンペルームで順位の発表ほか自己紹介、情報交換等有意義な時間を過ごし、午後 4 時に解散となりました。多くの同窓生の方々の参加をお待ちしています。

鳥羽の花火 海上から観賞

伊勢の人

7 月 25 日鳥羽の花火が鳥羽湾で盛大に打ち上げられましたが、同窓生所有のヨットに多くが押し掛け、合計 14 名で花火見物、海上から次から次へと打ち上げられる花火を堪能しました。

池の浦から回航しましたが、途中できれいに染まった夕焼けを見ながら鳥羽港へ移動しました。鳥羽港ではすでに多くのボートが集まってきており、隙間を見つけ場所を確保。

まじかに見える打ち上げ花火、半円状に見える海面から開く大きな花火。



ビールを飲みながら、心地よい風に吹かれながら、花火を楽しみました。海上からの花火は初めての経験ですが、病みつきになりそうです。

伊勢湾オープンヨットレース

3213

8 月 3 日津で伊勢湾オープンヨットレースが開催されましたが、アクセスディンギーの経験を生かし？(怖いもの知らず?)クルーザー部門で参加した「ポセイドン号」のクルーとして乗艇し、がんばってきました。

乗艇したクルー 8 名の最年長者は 84 歳、最年少者は 49 歳、平均年齢は??

風強く、波高い、セーリング日和で、我らが先輩同窓生の操縦するヨットは快調に走り、20 艇中、5 位となりました。

クルーとして乗艇したものの、バラストとして少しは役には立ったかと。

今朝の新聞には優勝艇でなく、「ポセイドン号」の快走する写真が掲載され、乗艇したみんなは大喜び。楽しかったですねー。



事務局だより

同窓会報発送

2013年度の同窓会報が出来上がり、9月26日27日に封筒入れ作業を事務局で行い、27日に発送しました。今回は数名の母校同窓生職員が協力してくれて、作業がおいしいにはかどり助かりました。感謝します。



会報上で会費納入記載漏れ

2013年度の会報に会費納入について記載されていますが、一部の方の記載漏れがありましたので、お詫びします。大変失礼しました。本件、同窓会HP参照ください。尚、会報に合封した各人の会費納入状況通知には正確に記載されております。

商船学科 新入会員

9月29日に母校で商船学科の卒業式が挙行政され、28名がめでたく卒業となりました。同窓会では祝賀パーティー会場入り口で入会費・年会費2年分等の支払いを期待して準備しておりましたが、航海コースは15名全員が、機関コースは一部の新卒者が支払ってくれました。新たな会員を同窓会は歓迎します。



学校長と面談

10月23日10時から母校の藤田学校長、山下事務部長と江崎同窓会事務局長、古川故郷の海を愛する会会長他が面談し、同窓会活動に関して以下のような打合せとお願いをしました。

- ・学生課外活動支援金の今年度の状況について報告。
- ・新卒者の同窓会への入会に関しての協力お願い。
- ・故郷の海を愛する会の本年度のこれからの活動と来年度の活動に対する協力お願い。
- ・11月17日の海学祭での同窓会の催し物の説明とお願い。
- ・記念碑周辺の草刈りを11月11日頃行う旨を報告、学校の協力をお願い。
- ・海学祭で、解体予定の白菊寮を開放し見学させて頂く又、現在の暁寮の様子を取材させて頂く。
- ・伊勢志摩支部総会・懇親会（合同クラス会）を11月23日に行う旨、報告。



奨学後援会会長と会談

海学祭の催し物「オジサンダンス」の一員として参加された母校奨学後援会の鳥山会長と同窓会事務局長以下事務局員数名が会談しました。学生の保護者にもっと同窓会の現状、活動などの理解をしていただこうとお願いして実現したものです。



会員住所再確認作業

同窓会報を例年通り昨年9月末に住所の判明している全同窓会会員3730名に発送しました。84通が住所不在で返送されてきました。

不着原因として以下が考えられます。

- ・会員の就職先変更により現住所が変わった。
- ・会員の単なる引っ越し（住宅の購入など）によるもの。
- ・会員の結婚による姓の変更及び住居の変更（女性会員が多い）。
- ・郵便物の届け先が実家の場合、本人が転出していると実家にも配送されない。

返送郵便物を少しでも減らし、より多くの会員に確実に届ける事が出来るよう住所再確認作業を1月後半に2週間ほどかけて行いました。

その結果、住所不在で返送されてきた84名のうち、46名の連絡先が判明しました。

会員のデータベースを洗い出し、実家の連絡先、勤務先、携帯電話の番号等の手掛かりを元に聞き取り作業をしたものの、実家の電話は昼間にかけても出ない家がほとんど。また、携帯電話は、昼休み夜間等限られた時間帯のみを考慮しなければならない事、勤務先においても昼休みの時間帯に電話するなど気を遣いましたが、其れにもまして最近の世情においては個人情報保護の観点も念頭に置き言葉を選ばなければならない事など、障害が多い中、それでも各企業、実家の親御様には鳥羽商船同窓会という名前が信用されているのか、数年前に転職・転居された会員の情報を親切に教えて戴けた（個人情報保護の観点からいいか悪いかは別として）こともあり、新連絡先を判明させることができました。今後においても年月が過ぎることで会員の移動等が多くなってくると思われますが、会員の皆様におかれましてはこまめに自己情報を同窓会事務局に流していただけるようお願いする次第です。

勿論、同情報の管理に関しては細心の注意を払うことに心がけることは言うまでもありません。

同窓会総会の案内にたいする返事を忘れないで

会員の皆さんには「同窓会総会及び懇親会のご案内」を今年は3月に送付していますが、総会・懇親会のご出席の有無と共に、会員の皆さんの最新の連絡先なども記入して頂き、4月20日までに同窓会に送付するようお願いしています。

しかし、残念ながら返事のない方が多数おられます。お忙しいとは思いますが、会員情報に変更がなくても、返信をお願いします。

中部支部からの寄付について

2013年6月、同窓会本部総会が中部支部の担当によって名古屋において盛大に開催されました。

開催にあたり、中部支部が支部会員から総会開催経費の支援として、寄付金を募りました。

その寄付金は、総会懇親会の一部経費(BGMバンド費用)に充当し、残金を本部に寄付してくれました。

寄付活動に関し、中部支部に感謝します。また寄付して頂いた方々に御礼申し上げます。

学校と同窓会の懇談会 開催

2014年3月18日午後から母校において学校と同窓会の懇談会が開催されました。学校から藤田校長、山下事務部長他合計5名、同窓会から金田副会長、江崎事務局長、古川伊勢志摩支部長（故郷の海を愛する会会長）ほか3名が参加しました。友好的かつ有意義な懇談会となりました。今回は以下の件につき、同窓会からお願い・問い合わせさせて頂きました。

- ・近藤真琴記念碑周辺の整備を学校が行ってくれましたが、今後の改修の計画を学校に問い合わせ。
- ・本年5月末に発行予定の同窓会会員名簿に記載する旧教官、教職員、在校生の情報提供をお願い。
- ・卒業予定者への同窓会の説明会の実施のお願い。
- ・故郷の海を愛する会の活動に対する協力をお願い。
- ・百周年記念館の施設利用に関するお願い。

- ・白菊寮の北寮が解体されましたが、その後の計画について問い合わせ。



工業系卒業式後の謝恩会場で入会手続き

2014年3月3日、母校に於いて電子機械工学科、制御情報工学科卒業証書授与式並びに専攻科（生産システム工学専攻）修了証書授与式が挙行されました。

卒業おめでとうございます。

その後の謝恩会会場で恒例になった同窓会入会手続きを行いました。



同窓会ホームページアクセス数 50000 件突破

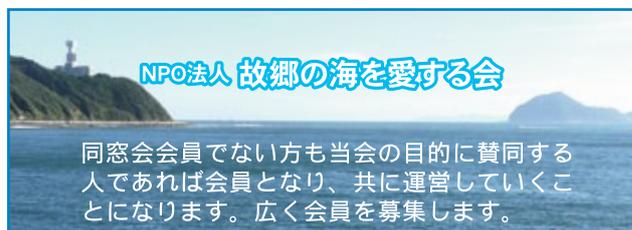
同窓会のホームページは2008年10月に開設され、途中2012年11月から改訂版として継続されていますが、2014年1月17日に累計アクセス数が50000件を突破しました。

40000件突破は2013年4月2日であり、その後の10000件を290日で成し遂げた事となります。一日平均で約35件となります。

同窓生の中で段々と認知されてきているようで、そのアクセス数は少しずつですが増加しています。特に昨年2013年7月頃から明らかに増えました。若い人たちのアクセスが増えたものによると理解しています。

ホームページに皆さんの興味を引く記事をアップするとアクセス数が跳ね上がります。

もっともっと盛り上げたいので、クラス会報告、会員の投稿、各支部からの報告をどしどしお寄せ下さい。



同窓会ホームページ訪問者

同窓会ホームページへの国別訪問者の上位は以下の通りですが、今話題のウクライナが2位です。中国が3位。日本語がわかるのでしょうか？最近、多くの迷惑投稿がありました。変な日本語からすると多分その辺りからの発信かと思えます。日本約10000人、ウクライナ約1300人、中国約1000人、アメリカ約1000人、不明約800人
 記事別訪問者数の上位は
 投稿欄約2900、支部便り約2000、ニュース約1500、事務局便り約1200、鳥羽だより約1000、求人欄約900

花見

2014年4月8日、同窓会事務局・伊勢志摩支部合同で花見を実施しました。恒例になりましたが伊勢市二見町の山口邸で事務局と伊勢志摩支部同窓生11名と奥さま3名が集い、満開の桜を眺めつつ楽しい花見となりました。山口さんの奥さんと三井さんの奥さんの心のこもった手料理に舌ツツミをうちながら、延々と続くお花見を楽しみました。1年に一度の楽しみですね。

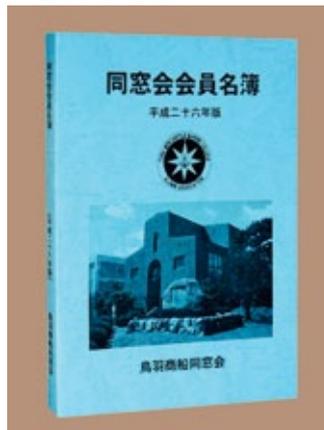


近藤真琴記念碑

学校が近藤真琴記念碑の周辺のお白石を新しくし、木々の手入れをしてくれました。近藤真琴記念碑は母校の正門をはいったすぐ右側、百年記念資料館手前に建っていますが、もともとは鳥羽の錦町に建てられたものです。昭和15年学校の記念事業として記念碑を校域に移築しました。それ以降、大切に祀られてきましたが、平成2年現在位置に再度移築されました。学校が近藤真琴記念碑の周辺のお白石を新しくし、木々の手入れをしてくれました。



新会員名簿完成



事務局では、今年の2月初めから4年ぶりとなる新しい同窓会会員名簿の発行準備に取り掛かりました。前回の発行を参考に、より広く広告の募集を行い、会員からの連絡先などの個人情報の提供依頼を行い、新しいデータの入力をして、名簿発行にかかる会員データの出力と内容確認、広告の内容の確認、などなど。

4月～5月初めは何度もチェックを行い、5月20日頃には最終校正が終わり、印刷開始となりました。そして、5月31日、新しい会員名簿が完成し、事務局にて受け取りました。早速、出来栄を確認しましたが、よくできていると思います。印刷にかかる費用も前回より削減出来ました。多くの会員の購入注文をお待ちしています。注文頂いた方々には既に配布させて頂きましたが、未だ受け取っていない方がおられましたら連絡下さい。

今回の名簿発行に際して、多くの方々、特に水先案内人の方々、から広告を掲載して頂きました。ご協力に感謝します。

白菊寮南寮 解体さる

母校の白菊寮は年初から解体作業が始まっていましたが、作業が進み、先ず北寮、そして南寮もほぼ解体されてしまいました。その時にお世話になった私たちにはとても残念なことです。元食堂と連絡廊下が映っていますが、元食堂は残るようです。



平成 26 年度行事予定 (一部実績)

月日	曜日	時間	行事内容	関係者	備考
4月5日	金		入学式 (本科 S・M・I・専攻科生産)		
5月15日	水		戦没・殉職船員追悼式	会長・東日本支部	於：横須賀市観音崎公園
5月末日			平成 26 年度版会員名簿発行	事務局	
6月9日	日		理事会・総会・懇親会	会長・副会長・会計監査・ 主管支部役員・全会員	懇親会 関西支部主催
6月28日 7月6日 7月19日	土 日 土		国立高専 商船学科 5 校 合同進学ガイダンス	広島：西日本支部 横浜：東日本支部 神戸：関西支部	日本船主協会主催
7月26日	金		特別事業 鳥羽商船練習船「鳥羽丸」で 行く、造船所見学	伊勢志摩支部	故郷の海を愛する会主催
8月24日	土		特別事業 ヨットに乗って風と語ろう	伊勢志摩支部	故郷の海を愛する会主催
9月29日	日		卒業式 (N,E)・修了式 (海事)	会長・担当副会長・地元 支部役員・事務局	
9月末日			同窓会会報発行	事務局	
10月2日	水		入学式 (専攻科 海事)		
10月12日	土		特別事業 潮騒の島、神島の自然と伊良 湖水道	伊勢志摩支部	故郷の海を愛する会主催
11月3日	日		特別事業 海学祭に参加し郷土の偉人近 藤真琴の業績を学ぼう	伊勢志摩支部	故郷の海を愛する会主催
12月中旬	日		特別事業 水先人になって操船しよう	伊勢志摩支部	故郷の海を愛する会主催
3月3日	月		卒業式 (M・I)・修了式 (生産)	会長・担当副会長・地元 支部役員・事務局	

平成 27 年度行事予定

月日	曜日	時間	行事内容	関係者	備考
4月7日	月		入学式		
6月8日	日		理事会・総会・懇親会	会長・副会長・会計監査・ 主管支部役員・全会員	懇親会 伊勢志摩支部主 催

鳥羽商船同窓会
ホームページ

<http://tobashousen-dousoukai.com>

ホームページの
スポンサーを募集
しています。
**アクセス
上昇中!**

バナー広告ご協賛企業

スポンサーサイト

業務用加湿器のトップメーカー



水中高分解処理装置
自動化計装システムエンジニアリング



E・T エステック株式会社

海席料理



大阪屋鳥羽店

(株)鳥羽ヤママー



S44/E 江崎



iiiムロオ

鳥羽ビューホテル 花真珠



女将 迫間まち(旧姓:山門)

医療法人友仁会
友仁山崎病院



理事長 矩照幸 S52E
人間ドックで早期発見

会員の移動等

新入会員（平成26年5月現在）航海科は昨年度卒業です。

S科Nコース	S科Eコース	M科	I科	合計
15	13	29	35	92

物故会員（平成25年4月1日～平成26年5月31日）

S科Nコース	S科Eコース	M科	I科	合計
28	13	0	0	41

準会員 本科（平成26年5月現在）

S科Nコース	S科Eコース	S科	M科	I科	合計
68	55	84	202	211	620

注記：S科（商船学科）について 入学のときはコースを問わず、商船科に入学します航海にするか機関コースにするかは、2年の終わる時に決めます。よって、上記準会員の本科生は2年生まではS科で、3年生からはS科Nコース、S科Eコースとして報告しています。

会員数（平成26年5月現在）

S科Nコース	S科Eコース	M科	I科	合計
1437	1710	799	773	4719

特別会員（平成26年5月現在）

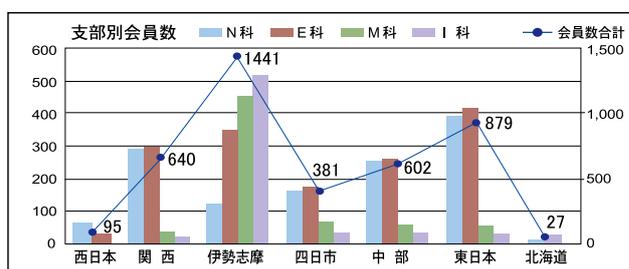
S科Nコース	S科Eコース	M科	I科	合計
6	5	0	0	11

専攻科（平成26年5月現在）

海事システム学	生産システム学	合計
2	24	26

鳥羽商船同窓会 会員数・支部会員数

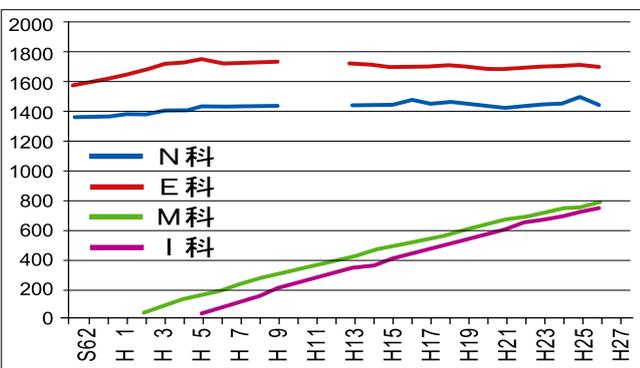
	卒業生	現会員	（現会員数内訳）		死亡	小計
			支部所属	支部不明		
N科	2532	1437	1257	180	1095	2532
E科	2716	1710	1479	281	1006	2716
M科	803	799	680	119	4	803
I科	773	773	649	124	0	773
合計	6824	4719	4065	654	2015	6824



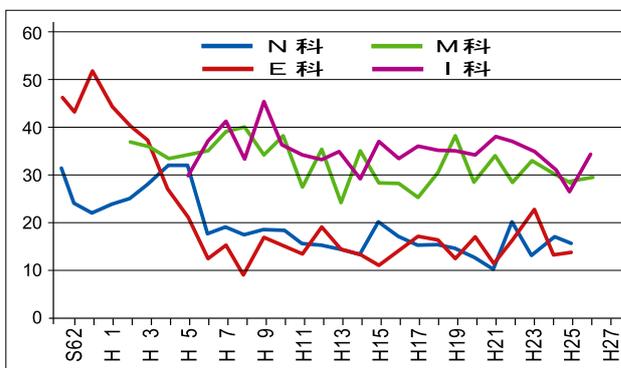
会員数の変化

会員数の記録（推移）

会員数

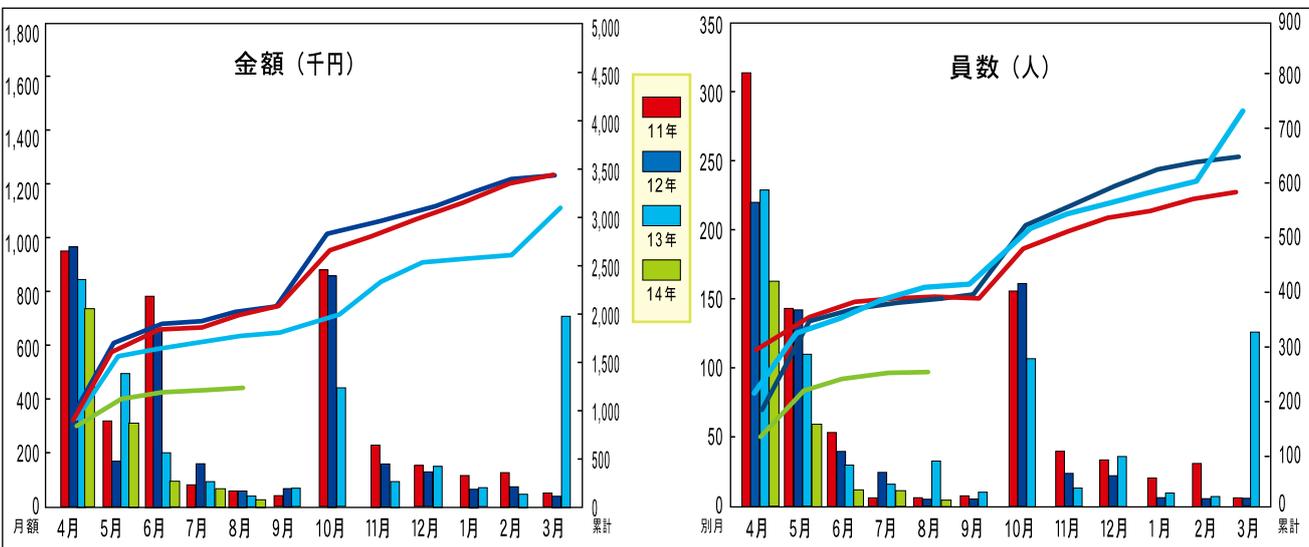


新入会員数



月別会費納入状況

会費納入実績では4月と10月にピークがあります。これは会報の送付と総会の案内の時期に重なります。



個人情報の取扱いに注意ください。

同窓会会報・会員名簿に記載の個人情報は鳥羽商船同窓会の懇親のためのものです。時々悪用される事がありますので、個人情報の取扱いには充分にご注意ください。同窓生以外に譲渡などをご遠慮願います。コピーも禁止します。
今年度から個人情報保護の観点から、住所の詳細、郵便番号、電話番号等の個人が特定できるような情報は掲載しない事としました。会員が連絡を取りたい場合は事務局に問い合わせ下さい。

死亡者一覧

謹んでお悔やみを申し上げます H25年9月1日～H26年8月31日の間で連絡のあった方

科別	卒業年	氏名	住所地	科別	卒業年	氏名	住所地		
航海科	S06	△井上 利夫	福岡県小郡市	航海科	S29	△田村 豊治	三重県鳥羽市		
	S10	△内藤 平七	三重県津市		S30	△午頭 晴雄			
	S11	△鈴木 捷	神戸市東灘区		S32	△鴨門 淳夫	神奈川県茅ヶ崎市		
	S16	△田中 明	名古屋市天白区		S32	△前田 公	青森県五所川原市		
	S16	△室谷 迪滋	三重県尾鷲市		S33	△原 功一	千葉県市川市		
	S17	△隄 至行	大阪府富田林市		S41	△浦上 達夫	三重県尾鷲市		
	S17	△西川 慶堂	三重県鳥羽市		S43	△菊池 俊秀	三重県四日市		
	S19	△榎本 正	三重県尾鷲市		S44	△尾形 忠比古	千葉県市川市		
	S19	△間宮 金一	岐阜県羽島郡		機関科	S07	△梶原 了	千葉県船橋市	
	S19/12	△宇佐美 昭生	神奈川県大和市			S18	△中山 嘉美	神戸市垂水区	
	S19/12	△神澤 重司	兵庫県三木市			S19	△松下 卓	静岡県御前崎市	
	S19/12	△早川 哲	愛知県清須市			S21	△樋口 三郎	神奈川県相模原市	
	S19/12	△三田村 廣義	徳島県板野郡			S21	△関根 力夫	名古屋市千種区	
	S19/12	△村田 昌平	大阪府藤井寺			S23	△河村 和美		
	S21	△井上 博	広島県福山市			S23	△世古 那須太	神戸市垂水区	
	S21	△安田 徹	神奈川県平塚市			S23	△藤田 雄一	神戸市垂水区	
	S22	△齋藤 希二	三重県鳥羽市			S24	△佐藤 定男	大阪市港区	
	S22	△山本 茂	名古屋市港区			S26	△中村 之則	神戸市須磨区	
S23	△林 幹夫	埼玉県草加市	S39	△大久保 薫		東京都杉並区			
S23	△濱岡 増巳	三重県伊勢市	S40	△永井 正雄		兵庫県尼崎市			
S25	△梅田 四郎	横浜市戸塚区	S49	△谷口 淳二		愛知県知多郡			
S26	△高橋 恭三	横浜市港南区	S50	△中川 幸彦		三重県伊勢市			
S27	△西 雅弘	東京都渋谷区	S58	△森 正茂					
S28	△西平 賀助	横浜市鶴見区							

新入会員

航海科（平成25年9月卒業）

卒年	氏名	住所地	職業、勤務先
H25	角田 真一		
H25	笠原 侑誠	三重県桑名市	商船三井フェリー
H25	川上 絢也		
H25	貴田 啓太	仙台市若林区	
H25	新堂 純	名古屋市港区	
H25	中川 弥沙	大阪市港区	
H25	長倉 諒		
H25	野原 淳紀	京都市西京区	
H25	鳩山 勇太	三重県名張市	
H25	前田 安紀		
H25	前場 萌那江		
H25	森本 匠		
H25	柳澤 仁		
H25	山崎 さやか		
H25	山本 昂	静岡県富士市	

機関科（平成25年9月卒業）

卒年	氏名	住所地	職業、勤務先
H25	西岡 明美	三重県久居市	JMU(株)津事業所
H25	水谷 文亮	三重県津市	
H25	森 雄史	北海道函館市	
H25	山本 慎	三重県津市	
H25	吉村 美紅	兵庫県たつの市	(株)吉村造船鉄工

電子機械工学科（平成26年3月卒業）

卒年	氏名	住所地	職業、勤務先
H26	石井 洋和		
H26	宇沢 湧己		
H26	大田 俊		
H26	大多和 周作		
H26	岡崎 研人		
H26	川上 涼太		
H26	小磯 幸紀		
H26	近藤 達喜		
H26	坂田 昂平	三重県亀山市	中部電力(株)
H26	坂野 将弥	三重県伊勢市	
H26	佐々木 勇人		
H26	嶋本 壮哲	三重県鳥羽市	
H26	田中 悠祐		
H26	中世古 一磨		
H26	中谷 大志	三重県度会郡	専攻科進学
H26	中西 敏	三重県伊勢市	菱電機エンジニアリング(株)
H26	中村 武揮	三重県鳥羽市	東芝エレベータ
H26	中村 稜		
H26	西井 春樹		
H26	野田 駿		
H26	早川 諒		
H26	平賀 賢		
H26	藤村 翔太		
H26	堀口 竜麻		
H26	八幡 真広	三重県伊勢市	
H26	山川 雅央		
H26	山村 俊介	三重県伊勢市	
H26	米田 涼		

情報制御工学科 (平成26年3月卒業)

Table with 4 columns: 卒年, 氏名, 住所地, 職業、勤務先. Lists graduates from the Information Control Engineering Department.

Table with 4 columns: 卒年, 氏名, 住所地, 職業、勤務先. Lists graduates from the Information Control Engineering Department.

住所変更

【個人情報のご注意】

Table with 4 columns: 卒年科, 氏名, 住所地, 職業、勤務先. Lists address changes for graduates.

Table with 4 columns: 卒年科, 氏名, 住所地, 職業、勤務先. Lists address changes for graduates.

卒年	科	氏名	住所地	職業、勤務先
H05	E	林 優	大分県大分市	三井造船(株)
H08	E	上川 直也	三重県津市	近鉄電気エンジニアリング(株)
H12	E	三鬼 雅貴	三重県松阪市	(有)こちょう丸
H14	E	田伏 秀司		
H17	E	森 雄司		
H18	E	篠原 幹英	岐阜県岐阜市	神戸大学海事科学部
H19	E	西岡 邦宗	三重県桑名市	
H19	E	鈴木 覚士	愛知県名古屋	
H22	E	東 亮佑	三重県松阪市	(株)伊勢丹ビルマネジメントサービス
H03	E	神原 健太		
H03	M	濱口 佐和子		
H03	M	平田しのぶ	名古屋市中村区	
H06	M	山川 幸洋	東京都西東京市	パイオニア(株)
H08	M	西田 和雅	長野県松本市	中部電力(株)
H09	M	御村 拓也	愛知県東海市	大同特殊鋼(株)
H09	M	上田 晶子	栃木県那須塩原市	ツーリストエクスパーツ
H12	M	本村 浩史		
H12	M	鈴木 啓也	三重県伊勢市	(株)UL Japan
H12	M	中岡 竜也		
H13	M	西田 博行	三重県多気郡	三重テクノラ(株)
H15	M	濱口 祥崇	愛知県刈谷市	東芝エレベータ(株)
H15	M	岩森 崇樹	愛知県北名古屋市	
H15	M	田村 光顕	東京都清瀬市	TDC/アトミックエンジニアリング(株)
H16	M	福井 良	愛知県日進市	マツダ自動車
H16	M	鈴木 健太	静岡県浜松市	(株)朝日電装
H17	M	松山 晃大	愛知県東海市	愛知製鋼(株)
H17	M	中村 仁勇	三重県鳥羽市	富士ソフトABC(株)
H20	M	山田 萌	三重県伊賀市	
H20	M	川邊 奈菜	栃木県厚木市	半導体エネルギー研究所

卒年	科	氏名	住所地	職業、勤務先
H21	M	澤田 峻一	三重県鳥羽市	
H21	M	濱口 恵至	三重県伊勢市	京セラミタ玉城
H21	M	三宅 功輝	三重県伊勢市	モビテック
H22	M	佐々木 拓夢	三重県伊勢市	関西電力(株)
H22	M	濱口 拓也	三重県志摩市	
H22	M	三星 貴裕	三重県伊勢市	ダイキン工業(株)
H06	I	小曾根さよみ		
H06	I	長谷部 眞典		(株)アイコム
H06	I	山本けい子		
H09	I	野村 富美		
H10	I	竹内 綾子	名古屋市長区	
H12	I	中村 真理	三重県伊勢市	シンフォニアテクノロジー(株)
H13	I	濱口 隆帆	大阪府生野区	
H15	I	橋本 健次	兵庫県姫路市	大阪ガス(株)
H16	I	村山 庸平	横浜市港北区	ヤフー(株)
H17	I	新谷 秀之	三重県度会郡	リコーテクノ(株)
H17	I	松田 康		
H18	I	岡村 和樹	愛知県豊田市	
H18	I	片山 忠和	川崎市宮前区	京セラ(株)
H19	I	藤田 結香	三重県伊勢市	
H19	I	坂中 朋美	名古屋市中川区	
H20	I	稲田 国大	愛知県刈谷市	株式会社KSK
H20	I	尾崎 仁美	三重県鳥羽市	(株)コムデックス
H20	I	中西 純平	神奈川県相模原市	株式会社FFC
H21	I	杉本 真佐樹	東京都港区	
H21	I	寺本 夏海	三重県鳥羽市	ホムテックエンジニアリング
H22	I	西岡 美穂	川崎市川崎区	池上通信機(株)
H23	I	前川 智彦	三重県伊勢市	
H24	I	小川 開司	三重県志摩市	

寄付金・同窓会費納入一覧
平成25年9月1日から平成26年8月31日まで

寄付金	金額	氏名	金額
特別寄付		S35 E 菱田 司	¥10,000
全日本船舶職員協会様	¥10,000	S36 N 松浦 肇	¥10,000
S26年卒航機クラス会様	¥15,578	S37 N 樋口 毅	¥10,000
そばや長老庵売上	¥100,000	S42 N 坂田 安吉	¥10,000
一般寄付		S48 N 岡部 紀夫	¥10,000
S43 N 小甲 和己	¥103,000	S52 N 浅井 英輔	¥10,000
S36 E 石川 侑	¥100,000	S56 N 清水 真	¥10,000
S48 N 菅沼 延之	¥90,000	S36 N 佐藤 昭雄	¥8,000
S48 N 宗接 万太郎	¥30,000	S37 N 中島 章	¥8,000
S25 N 辻井 文男	¥20,000	S43 N 小林 司	¥8,000
S30 E 荒井 美喜三	¥20,000	S61 N 山口 淳	¥8,000
S31 N 水戸岡公一	¥20,000	S36 N 大西 彰夫	¥7,000
S31 N 来栖 利之	¥20,000	S40 E 川口 心也	¥7,000
S33 E 尾鷲 綱三	¥20,000	S41 E 山下 文徳	¥7,000
S41 E 山下 文徳	¥18,000	H04 E 江崎 修央	¥7,000
S19/12 E 中川 吉迪	¥12,000	S19 N 横山 為治	¥6,000
S17 N 松澤 輝雄	¥10,000	S19 E 山内 未夫	¥5,000
S19 E 上野 和泉	¥10,000	S19 E 右高 昭二	¥5,000
S19/12 N 鷺見 照夫	¥10,000	S21 E 森山 久	¥5,000
S19/12 N 中村 三喜雄	¥10,000	S32 N 大沢 則義	¥5,000
S19/12 N 山田 義郎	¥10,000	S37 N 野尻 進	¥5,000
S21 E 大高 伴式	¥10,000	S39 N 山本 隆雄	¥5,000
S22 E 三浦 一好	¥10,000	H18 N 杉本 真吾	¥5,000
S22 N 森本 為夫	¥10,000	S18 N 岸 望	¥4,000
S24 E 本岡 忠孝	¥10,000	S19 E 右高 昭二	¥3,000
S26 N 三本松 昇	¥10,000	S22 N 山本 茂	¥3,000
S27 E 飯山 嘉昭	¥10,000	S29 N 藤井 國男	¥3,000
S27 N 梅村 伸雄	¥10,000	S36 N 大西 彰夫	¥3,000
S28 N 下浦 康孝	¥10,000	S37 N 中島 章	¥3,000
S30 E 堀田 敏行	¥10,000	S38 N 川上 幹彦	¥3,000
S30 E 堀田 敏行	¥10,000	S39 N 家田 和良	¥3,000
S31 E 青木 孝之	¥10,000	S40 N 井上 道彦	¥3,000
		S40 N 坂崎 清	¥3,000
		S40 N 中川 敏	¥3,000
		S40 N 三村 徳蔵	¥3,000
		S41 N 中野 正義	¥3,000

皆様方のご厚情を受けまして、同窓会寄付とさせていただきます。誠にありがとうございます。会務運営費用として大切に使用させていただきます。

【個人情報取扱にご注意】

故人寄付	金額	氏名	金額
S41 N 丹羽 幸彦	¥3,000	S41 N 丹羽 幸彦	¥3,000
S42 N 青山 保	¥3,000	S42 N 青山 保	¥3,000
S42 N 水野 正治	¥3,000	S42 N 水野 正治	¥3,000
S43 N 井上 民規	¥3,000	S43 N 井上 民規	¥3,000
S44 N 武田 雄三	¥3,000	S44 N 武田 雄三	¥3,000
S47 N 中村 道夫	¥3,000	S47 N 中村 道夫	¥3,000
S48 N 鹿野 秀治	¥3,000	S48 N 鹿野 秀治	¥3,000
S49 N 犬飼 亨	¥3,000	S49 N 犬飼 亨	¥3,000
S49 E 河合 竹裕	¥3,000	S49 E 河合 竹裕	¥3,000
S49 N 小山 道夫	¥3,000	S49 N 小山 道夫	¥3,000
S51 N 坪井 繁明	¥3,000	S51 N 坪井 繁明	¥3,000
S51 N 藤本 良夫	¥3,000	S51 N 藤本 良夫	¥3,000
S52 N 鶴飼 幹夫	¥3,000	S52 N 鶴飼 幹夫	¥3,000
S52 N 畑内 康孝	¥3,000	S52 N 畑内 康孝	¥3,000
S53 N 森内 芳卓	¥3,000	S53 N 森内 芳卓	¥3,000
S54 N 鈴木 晴敏	¥3,000	S54 N 鈴木 晴敏	¥3,000
S54 N 増島 忠弘	¥3,000	S54 N 増島 忠弘	¥3,000
S62 N 門奈 克明	¥3,000	S62 N 門奈 克明	¥3,000
S18 N 石井 敏一	¥2,000	S18 N 石井 敏一	¥2,000
S22 N 濱崎 民也	¥2,000	S22 N 濱崎 民也	¥2,000
S22 E 坂田 均	¥2,000	S22 E 坂田 均	¥2,000
S23 E 藤川 勉	¥2,000	S23 E 藤川 勉	¥2,000
S25 N 小山 逸男	¥2,000	S25 N 小山 逸男	¥2,000
S25 E 川合 隆史	¥2,000	S25 E 川合 隆史	¥2,000
S28 E 増田 信	¥2,000	S28 E 増田 信	¥2,000
S30 N 佐藤 善喜	¥2,000	S30 N 佐藤 善喜	¥2,000
S31 N 橋本 博行	¥2,000	S31 N 橋本 博行	¥2,000
S32 N 郷原 邦昌	¥2,000	S32 N 郷原 邦昌	¥2,000
S35 E 三好 興光	¥2,000	S35 E 三好 興光	¥2,000
S35 N 田村 孝夫	¥2,000	S35 N 田村 孝夫	¥2,000
S38 E 岩田 仁	¥2,000	S38 E 岩田 仁	¥2,000
S41 N 成田 寛太郎	¥1,000	S41 N 成田 寛太郎	¥1,000
S43 N 岡田 晴康	¥1,000	S43 N 岡田 晴康	¥1,000
S50 N 多度 博行	¥1,000	S50 N 多度 博行	¥1,000
S59 E 勢力 勝之	¥2,000	S59 E 勢力 勝之	¥2,000
H12 N 守屋 英孝	¥1,000	H12 N 守屋 英孝	¥1,000

終身会員	氏名
S29 N 三澤 茂明	三澤 茂明
S30 N 田丸 修	田丸 修
S35 N 岩崎 敏壽	岩崎 敏壽
S36 N 軽部 欣四郎	軽部 欣四郎
S36 N 村田 勝久	村田 勝久
S38 N 松山 功	松山 功
S40 N 坂崎 清	坂崎 清
S40 N 三村 徳蔵	三村 徳蔵
S41 N 大高 伸一	大高 伸一
S41 N 成田 寛太郎	成田 寛太郎
S41 N 内藤 廣	内藤 廣
S42 N 青山 保	青山 保
S42 N 田中 三郎	田中 三郎
S43 N 池田 俊夫	池田 俊夫
S26 E 秋田 清	秋田 清
S35 E 黒崎 武美	黒崎 武美
S36 E 石川 侑	石川 侑
S39 E 樋口 彰範	樋口 彰範
S40 E 片岡 兼行	片岡 兼行
S40 E 関口 収	関口 収
S40 E 伊達 宏	伊達 宏
S41 E 木俣 良雄	木俣 良雄
S42 E 堀田 岩夫	堀田 岩夫
S43 E 三井 建次	三井 建次

入会金 N科15名 E科5名
N科5名 I科11名 計36名

会費

航海科

¥24,000	S35 林 六雄	¥4,000	S27 野田 幸彦	¥2,000	S34 川井 三明	¥2,000	S53 萩野 武彦	¥16,000	S53 上田 一寿
¥20,000	S10 内藤 平七	S30 上山 浩	S31 宇賀神 晃	S34 川井 舂	S53 瀬能 明	¥12,000	S53 溝口 秀樹	¥12,000	S43 村田 健次
S48 松本 信行	S33 佐野 義治	S33 土屋 昇	S36 岡安 敏功	S35 梅崎 延夫	S53 森内 芳卓	S53 桜井 薫	S44 宗和 達功	S52 石野 実努	
S50 三品 衛	S38 岡山 功	S38 川上 幹彦	S38 川上 幹彦	S35 大西 智	S54 戸村 安雅	S54 増島 忠弘	S52 林 保宣	S54 林 保宣	
S56 齋藤 均	S39 池尻 昌二	S39 池尻 昌二	S39 池尻 昌二	S37 村田 正順	S54 増島 忠弘	S55 浅野 清	¥10,000	S37 横山 真一	
S57 平岡 聖司	S42 左子 康夫	S42 左子 康夫	S42 左子 康夫	S37 和田 毅	S54 増島 忠弘	S55 糸川 賢	S37 横山 真一	S40 山口 秀	
H13 鈴木 裕也	S43 大平 喜則	S43 大平 喜則	S43 大平 喜則	S38 井上 信也	S55 岡本 康裕	S55 岡本 康裕	S40 山口 秀	S41 山塚 賢三	
¥16,000	H11 小野田 真宏	S43 立本 健	S43 立本 健	S39 家田 和良	S55 清久 裕陸	S55 福田 裕二	S41 山塚 賢三	S42 橋本 博司	
¥12,000	S49 原 敏樹	S43 服部 光幸	S43 服部 光幸	S39 池尻 昌二	S55 山田 哲也	S55 山田 哲也	S42 橋本 博司	S48 江尻 潜	
S57 岩渕 浩俊	S43 山本 宏一	S43 山本 宏一	S43 山本 宏一	S39 杉谷 誠	S56 清水 貢	S56 清水 貢	S48 橋本 潜	S48 橋本 潜	
¥10,000	S27 正木 明	S47 中村 道夫	S47 中村 道夫	S40 河口 長弘	S56 細谷 信吾	S56 細谷 信吾	¥10,000	S49 太田 正巳	
S32 大石 興造	S48 鈴木 秀司	S48 鈴木 秀司	S48 鈴木 秀司	S40 吉澤 弘	S57 岡松 宏	S57 岡松 宏	S49 太田 正巳	S49 森本 純一	
S37 塚田 袈裟昭	S48 天白 則彦	S48 天白 則彦	S48 天白 則彦	S40 若林 秀一	S58 江口 智寿	S58 江口 智寿	S49 森本 純一	S50 内山 陽一郎	
S42 坂田 安吉	S48 大谷 隆文	S48 大谷 隆文	S48 大谷 隆文	S40 杉田 正純	S58 谷水 良至	S58 谷水 良至	S50 内山 陽一郎	S50 山本 晴久	
S43 岡田 晴康	S51 林 俊克	S51 林 俊克	S51 林 俊克	S41 伊藤 恒男	S58 小西 浩司	S58 小西 浩司	S52 高岡 秀夫	S52 森井 弘	
S47 宮川 清	S54 土岐 正義	S54 土岐 正義	S54 土岐 正義	S41 曾和 聖一	S59 村田 秀典	S59 村田 秀典	S53 森井 弘	S55 高橋 正人	
S48 宗接 万太郎	S55 高橋 嘉弘	S55 高橋 嘉弘	S55 高橋 嘉弘	S41 鶴見 英昭	S60 土佐 等	S60 土佐 等	S55 高橋 正人	S56 高橋 邦浩	
S49 八木 武人	S56 望月 征司	S56 望月 征司	S56 望月 征司	S41 西川 久雄	S60 野崎 薫正	S60 野崎 薫正	S56 高橋 邦浩	S56 福永 敦	
S50 関田 亨	S57 田中 博繁	S57 田中 博繁	S57 田中 博繁	S42 青山 保	S60 山本 貴久	S60 山本 貴久	S56 福永 敦	S56 渡部 康裕	
S51 徳田 清司	S57 小谷 佳秀	S57 小谷 佳秀	S57 小谷 佳秀	S42 岡田 清	S61 伊藤 康敏	S61 伊藤 康敏	S56 渡部 康裕	S63 鈴木 俊雄	
S52 鎌田 富生	S63 横内 康太郎	S63 横内 康太郎	S63 横内 康太郎	S42 熊木 英男	S61 岡田 始	S61 岡田 始	S63 鈴木 俊雄	H01 中堂 宏治	
S52 十河 唯浩	H01 福田 裕司	H01 福田 裕司	H01 福田 裕司	S42 高橋 俊夫	S61 河南 泰彦	S61 河南 泰彦	H01 中堂 宏治	H01 濱田 靖之	
S52 戸崎 満	H03 三石 光	H03 三石 光	H03 三石 光	S42 高田 護	S62 西本 佐之	S62 西本 佐之	H01 濱田 靖之	H04 林 優	
S52 町 裕次	H04 相澤 功	H04 相澤 功	H04 相澤 功	S43 井上 民規	S62 門奈 克明	S62 門奈 克明	H04 林 優	H05 三村 純一	
S53 道畑 功勝	H04 紙屋 政輝	H04 紙屋 政輝	H04 紙屋 政輝	S43 伊藤 俊治	S63 伊藤 浩也	S63 伊藤 浩也	H05 三村 純一	S55 大又 育夫	
S56 坂淵 守	H06 稲垣 宏	H06 稲垣 宏	H06 稲垣 宏	S43 梅島 正	S63 徳永 太蔵	S63 徳永 太蔵	S55 大又 育夫	¥8,000	
S58 西尾 栄紀	H06 秦 久美子	H06 秦 久美子	H06 秦 久美子	S44 水野 正治	H01 小脇 斉	H01 小脇 斉	¥8,000	S48 久米 広泰	
S61 上田 敬志	H08 安部 亮志	H08 安部 亮志	H08 安部 亮志	S44 飯野 実	H01 田中 栄蔵	H01 田中 栄蔵	S48 久米 広泰	S52 中村 嘉秀	
H01 澤田 英樹	H08 北端 大志	H08 北端 大志	H08 北端 大志	S44 北川 宣雄	H02 平賀 正泰	H02 平賀 正泰	S52 中村 嘉秀	S54 家田 靖士	
H01 豊田 宏	H09 大野 泰平	H09 大野 泰平	H09 大野 泰平	S44 高橋 晴義	H02 大西 要	H02 大西 要	S54 家田 靖士	S62 高橋 伸吉	
H02 水野 俊也	H12 蛸積 史丸	H12 蛸積 史丸	H12 蛸積 史丸	S44 谷川 忠幸	H03 高梨 和輝	H03 高梨 和輝	S62 高橋 伸吉	H05 上川 直也	
H04 尾崎 功洋	H12 守屋 英孝	H12 守屋 英孝	H12 守屋 英孝	S44 服部 茂	H03 山本 頼之	H03 山本 頼之	H05 上川 直也	¥6,000	
H05 鈴木 剛也	H25 鳩山 勇太	H25 鳩山 勇太	H25 鳩山 勇太	S44 濱田 茂通	H04 渡邊 嘉美	H04 渡邊 嘉美	¥6,000	S24 小倉 旺彦	
H04 成尾 和也	H25 笠原 侑誠	H25 笠原 侑誠	H25 笠原 侑誠	S47 山本 忠志	H04 紙屋 政輝	H04 紙屋 政輝	S24 小倉 旺彦	S49 荒波 秀昌	
H07 福田 真和	H25 川上 絢也	H25 川上 絢也	H25 川上 絢也	S48 市村 孝夫	H04 牧戸 一浩	H04 牧戸 一浩	S49 荒波 秀昌	S49 山本 孝弘	
H21 遠藤 将実	H25 貴田 啓太	H25 貴田 啓太	H25 貴田 啓太	S48 大倉 明人	H06 岩田 定和	H06 岩田 定和	S49 山本 孝弘	S52 高木 宏明	
¥8,000	H25 新堂 純	H25 新堂 純	H25 新堂 純	S48 大澤 泰	H06 高橋 直樹	H06 高橋 直樹	S52 高木 宏明	S55 小林 正幸	
S47 根森 隆雄	H25 中川 弥沙	H25 中川 弥沙	H25 中川 弥沙	S48 大橋 隆男	H09 伊代 道	H09 伊代 道	S55 小林 正幸	S59 前田 徳久	
S48 森 理	H25 長倉 諒	H25 長倉 諒	H25 長倉 諒	S48 小橋 常久	H10 内田 大介	H10 内田 大介	S59 前田 徳久	H01 浅井 興志清	
S57 高山 裕司	H25 野原 淳紀	H25 野原 淳紀	H25 野原 淳紀	S48 鈴村 雅明	H11 吉田 茂樹	H11 吉田 茂樹	H01 浅井 興志清	¥5,000	
H01 新美 義哉	H25 前田 安紀	H25 前田 安紀	H25 前田 安紀	S48 富岡 栄一郎	H13 原田 大輔	H13 原田 大輔	¥5,000	S63 金川 元洋	
¥6,000	H25 前場 萌那江	H25 前場 萌那江	H25 前場 萌那江	S48 野村 錦生	H16 谷水 孝之	H16 谷水 孝之	¥5,000	S25 林 啓一	
S31 桑嶋 收平	H25 森本 匠	H25 森本 匠	H25 森本 匠	S48 横井 英樹	H16 岩田 孝之	H16 岩田 孝之	S25 林 啓一	S36 白井 久雄	
S38 松本 学	H25 柳澤 仁	H25 柳澤 仁	H25 柳澤 仁	S49 犬飼 博之	H17 城内 慶一	H17 城内 慶一	S36 白井 久雄	S18 土屋 一明	
S42 岡田 清	H25 山崎 さやか	H25 山崎 さやか	H25 山崎 さやか	S49 河田 正和	H18 富山 貴史	H18 富山 貴史	S18 土屋 一明	S19/12 濱口 三郎	
S44 武田 雄三	H25 山本 昂	H25 山本 昂	H25 山本 昂	S49 坂井 宏行	H21 山本 一真	H21 山本 一真	S19/12 濱口 三郎	S19/12 長谷川 正	
S47 長谷川 均	¥2,000	¥2,000	¥2,000	S49 玉田 明	H23 金子 海里	H23 金子 海里	S19/12 長谷川 正	S32 岩城 宏	
S48 山口 伸輔	S12 岡島 利夫	S12 岡島 利夫	S12 岡島 利夫	S49 梅村 明	H23 竹内 星弥	H23 竹内 星弥	S32 岩城 宏	S33 野原 勝	
S50 松井 茂春	S18 小原 博	S18 小原 博	S18 小原 博	S49 原 敏樹	H24 岩切 等	H24 岩切 等	S33 野原 勝	S35 染谷 友之	
S52 山下 栄司	S18 落合 好明	S18 落合 好明	S18 落合 好明	S49 山本 幸生	H24 佐藤 哲也	H24 佐藤 哲也	S35 染谷 友之	S36 鯨井 征一	
S54 吉村 弘之	S19 間宮 金一	S19 間宮 金一	S19 間宮 金一	S50 郡 茂典	機関科	機関科	S36 鯨井 征一	S36 原 純	
S56 谷口 誠	S19/12 松岡 万次郎	S19/12 松岡 万次郎	S19/12 松岡 万次郎	S50 佐々木 靖	¥30,000	H02 江下 正明	S36 原 純	S36 森本 昇治	
S57 高山 裕司	S21 小橋 丞治	S21 小橋 丞治	S21 小橋 丞治	S51 天野 雅友	¥22,000	S47 矢野 寛	S36 森本 昇治	S42 伊藤 薫	
S60 黒田 健之助	S21 佐藤 清治	S21 佐藤 清治	S21 佐藤 清治	S51 稲益 義久	¥20,000	S40 玉木 勉	S42 伊藤 薫	S47 岡本 楠清	
H01 齋心 俊憲	S22 白柳 祐次	S22 白柳 祐次	S22 白柳 祐次	S51 小笠原 典城	S40 濱地 安実	S40 濱地 安実	S47 岡本 楠清	S47 高井 巧	
H22 小早川 直紀	S22 柳原 玉喜	S22 柳原 玉喜	S22 柳原 玉喜	S52 浅井 英輔	S47 永井 順也	S47 永井 順也	S47 高井 巧	S49 高橋 光雄	
¥4,000	S25 川口 信吉	S25 川口 信吉	S25 川口 信吉	S52 鵜飼 雅彦	S54 金田 豪	S54 金田 豪	S49 高橋 光雄	S49 宇野 剛資	
S15 前田 博	S27 田澤 進	S27 田澤 進	S27 田澤 進	S52 黒崎 徳治	¥18,000	S41 加藤 道夫	S49 宇野 剛資	S51 岩田 愛一郎	
S19/12 根本 明	S27 渡邊 清	S27 渡邊 清	S27 渡邊 清	S52 渡邊 徳治	S41 加藤 道夫	S41 加藤 道夫	S51 岩田 愛一郎	S50 西山 明	
S22 白柳 祐次	S30 田丸 修	S30 田丸 修	S30 田丸 修	S52 田中 潔			S50 西山 明	S51 山本 秀史	
S25 高橋 徹	S30 徳島 博	S30 徳島 博	S30 徳島 博	S52 山本 隆史			S51 山本 秀史		
	S33 宮倉 保男	S33 宮倉 保男	S33 宮倉 保男	S52 吉田 篤夫					
	S34 野村 義男	S34 野村 義男	S34 野村 義男						
	S34 奥田 一男	S34 奥田 一男	S34 奥田 一男						

¥4,000	S51 浅沼 茂樹	¥2,000	S30 春口 正一郎	¥2,000	S49 清水 謙一	¥2,000	S58 前田 達也	¥4,000	H26 坂田 昂平
S52 楠岸 光計	S31 前川吉 勝一	S49 高橋 敬四郎	S58 勢力 勝之俊	H26 坂野 将弥					
S53 柴原 秀夫	S32 殿上 隆久	S49 田口 高弘	S59 藤原 英和志	H26 中西 敏					
S54 芝 広和	S32 平岡 幸正	S49 谷口 淳二	S59 古坂 和志	¥2,000					
S56 碓子 千浩	S33 山口 義之男	S49 渡邊 嘉春	S59 的場 正視	H02 深田 拓生					
S56 川村 陽一	S35 小平 忠男	S50 加藤 保	S60 中西 裕紀	H02 水野 京持					
S56 塩野 明俊	S35 西村 英毅	S50 庄司陽 二郎	S60 森本 聡徳	H03 山川 幸洋					
S56 城山 久夫	S36 伊藤 孝	S50 財田 充郎	S61 當宮 成人	H10 濱口かやの					
S56 土井根 寛	S36 小出 哲夫	S50 永井 俊彦	S61 中条 雅一	H18 岡村 昌樹					
S56 藤野 栄里	S37 小島 健治	S51 石原 正生	S61 華野 俊弘	H18 山口 琢己					
S56 田畑 明	S37 武藤 登	S51 岩見 誠	S61 平賀 啓一	H20 阿部 雅登					
S56 吉見 慶	S37 山田 岑生	S51 浅川 和則	S62 池田 義昭	H21 鈴木 善博					
S58 廣 耕太郎	S38 清水 等	S52 浅野 真司	S62 平尾 圭志	H25 西井 雄飛					
S59 加藤 勇一	S39 船曳 幸男	S52 石井 秀幸	S62 細川 泰彦						
S60 出村 猛	S40 鴨志田 清敏	S52 熊谷 欣樹	S63 上村 健太						
S60 早崎 弘泰	S40 片岡 兼行	S52 後藤 一郎	H01 浅井與志 清	制御情報工学科					
S60 葛上 雅記	S40 木村 高明	S52 坂井 敏	H01 通野 浩文	¥20,000					
S61 濱田 雅太	S40 関口 収	S52 高木 淳	H02 伊奈 徹人	H10 多米 郁雄					
S61 山本 悦史	S40 樋口 謙次	S52 高木 宏明	H03 杉山 茂	H16 中井 一文					
S62 山本 勝昭	S41 渡辺 一雄	S52 竹内 章	H04 加藤 雄大	¥10,000					
H02 石川 喜規	S41 木俣 良雄	S52 達村 伸	H16 櫻井 央典	H14 村松 亜希					
H02 綱島 毅	S41 鬼頭 明生	S52 蜂谷 守	H21 三宅 俊哉	¥6,000					
H17 篠原 幹英	S41 松本 昭治	S52 久田 隆司	H23 山口 康太	H08 大市 剛裕					
H17 佐藤 航紀	S41 前田文一郎	S52 森脇 伸一	H24 青木 元	H19 中西 航					
H18 出口 力男	S41 三輪 光治	S52 堀 祥司	H24 山口 貴史	¥4,000					
H19 柴原 愛樹	S42 竹川 俊幸	S52 加塚 伸吾	H25 山本 慎	H16 楠 基					
H20 磯和 謙典	S42 丹 伸一郎	S52 村田 友宏		H21 柴原 陽介					
H23 北村 多朗	S42 溝井 昇	S52 糸井 賢二	電子機械工学科	H26 藤原 正希					
H25 西岡 明美	S43 畠山 周	S53 菊池 優	¥20,000	H26 伊藤 真理					
H25 水谷 文亮	S43 牧野 博久	S53 鈴木 俊宏	H03 平田しのぶ	H26 佐野 高啓					
H25 森 雄史	S43 村田 健次	S53 中村 俊輔	H03 松尾 義春	H26 柴原 基希					
H25 山本 慎	S43 山崎 正幸	S53 安野 豊彦	H04 竹本 宏	H26 天白由伊 穂					
H25 吉村 美紅	S44 岡島 博	S53 割田 章夫	H06 田中 直美	H26 鳥山 新崇					
¥2,000	S44 河口 善美	S54 竹内 幹弥	H06 西田 和雅	H26 中西 崇					
S15 加藤 卓雄	S44 衣笠 史郎	S54 中瀬 和典	H06 堀内 祐志	H26 濱口 大地					
S15 向原 誠也	S44 草野 正行	S54 野路真一郎	H06 柴原 敦	H26 藤谷みなみ					
S18 中山 嘉美	S44 内藤 邦雄	S55 岩村 嘉尚	H18 木田 堅人	H26 山川 晃永					
S19/12 浅沼 正男	S44 長谷川真佐雄	S55 岡野 光章	H20 山本 晃也	H26 山本龍太郎					
S21 岡地 優	S44 宮崎 幸夫	S55 岡野 光章	¥8,000	¥2,000					
S21 武田 孝治	S47 岡本 楠清	S55 黒須 武	H10 川添 悟	H07 竹内 晃輔					
S21 細井 良一	S47 田中 秀紀	S55 田村 佳久	H10 山本 晃也	H12 芝崎 直也					
S21 山崎 澄雄	S47 橋本 英三	S56 伊藤 靖之	¥6,000	H13 濱口 隆帆					
S21 和田 禎夫	S48 神山 正二	S56 大野 伸良	H10 山本 晃也	H14 野本 学美					
S22 田中 英明	S48 神子 功	S56 五島 政明	¥4,000	H18 岡村 和樹					
S22 藤本 勇	S48 鬼澤 秀和	S56 清水 栄喜	H06 奥野 高広	H20 稲田 国大					
S23 榎本 敬	S48 阪田 泰一	S56 松村 慎司	H06 中西 健	H22 岩本 桂					
S23 片岡 久雄	S48 堀 忠幸	S57 大石 大輔	H08 古田 雅則	H23 大矢 悦子					
S27 金澤 恒男	S48 水谷 敦夫	S57 笠木 司	H18 柴原 大輝						
S27 深澤 好友	S48 奥田 宣夫	S57 長澤 山泰	H24 野中 隆弘						
S27 森脇 利康	S49 齋竹 克彦	S57 生川 齐	H26 八幡 真広						
S28 菊地 正弘	S49 佐藤久米男	S57 松岡 信也	H26 大多和周作						

同窓会ホームページ <http://tobashousen-dousoukai.com/>

学生募集
の
PR依頼

少子化の時代を迎え、義務教育以外の学校は皆、学生の確保に躍起になっています。特に大学は学生の全入学時代に突入り、一段と厳しさを増しています。将来に向け予断は許されず、学校としても学生募集のPRに励んでいます。つきましては、より優秀な学生に入学していただくため同窓会員の御協力を仰ぎたい所存です。学校に御連絡いただければ、A2版ポスター、学校案内冊子、学生募集要項をお送りしますので、下記宛に御連絡いただきま

独立行政法人 鳥羽商船高等専門学校

〒517-8501 三重県鳥羽市池上町1-1 電話(0599)25-8404
ホームページアドレス <http://www.toba-cmt.ac.jp/> E-mail gakusei-nyushi@toba-cmt.ac.jp

◎書類請求(無料)は本校の学生課入試・支援係へ